



3331
ARTS CYD

2020. Mar. 18

wed

22

sun

3331
ART
FAIR

Organized by 3331 Arts Chiyoda

artfair.3331.jp/

Breath of the Artists.

開催報告書

目次

1. 開催概要	03	10. [同時開催] アーツ千代田 3331 特別企画展 「アーリー 90's トーキョー アートスクアッド」展	35
開催概要		開催概要	
開催のご挨拶		展覧会に寄せて	
数値報告		関連イベント	
2. プライズ	07	11. パートナーシップ	39
プライズセレクターについて		パートナー一覧	
プライズセレクター一覧		パートナーシップ事例	
コレクター・プライズ結果発表		12. デザイン	44
3331 ART FAIR オーディエンス・プライズ		ロゴ・キービジュアル	
レコメンドアーティスト結果発表		サイン計画	
3. 館内見取り図	15	各種広報物 (チラシ・ポスター)	
4. 1F-Main Gallery/Lounge	17	ガイドブック・その他制作物	
出品作家		13. 広報・プレス	49
作家推薦者・総評		掲載実績	
5. ROOFTOP	21	プレスリリース	
作家推薦者		WEB サイト	
ArtSticker × 3331 ART FAIR2020		SNS	
出品作家		14. アンケート / 来場者、参加者の声	55
6. Galleries-B1F/2F	24	来場者アンケート	
7. Art Projects	26	アーティストの声 (閉幕後)	
8. Satellite Venue (NOHGA HOTEL UENO)	28	アーティストの声 (会期前に、開催についてヒアリングをした際、寄せられた声)	
9. 関連イベント	30	プライズセレクター・来場者の声	
① パフォーマンス		15. フェアを作った人々	60
② クロストーク「キュレーター × アーティスト」シリーズ		[資料1] 3331 ART FAIR 2020 当初プラン	
③ 支援・評価・アーカイブ・共有するアート 新時代のプラットフォーム構築		[資料2] 新型コロナウイルス等の感染防止対策	
④ #ハフポスト LIVE × 3331 ART FAIR 2020 スペシャルトーク 「現代アートで問いかける、女子受験生が減点される社会」			62

1

開催概要

**3331
ART
FAIR**

Organized by 3331 Arts Chiyoda



開催概要

はじめに

3331 ART FAIR 2020は、2020年3月初旬における新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参加者の皆様へのヒアリングと事務局内での議論を重ね、苦渋の決断をもって当初の企画内容を大幅に変更・一部中止し、「開催規模の大幅縮小」「事前予約制による来場者数の大幅抑制」「徹底的なウイルス感染防止対策の実施」を取り入れる方針にて開催に至りました。本来参加を予定されていたアーティスト様、ギャラリー様、団体様、大学様、出演者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、実施内容の変更について、皆様からのご理解とご協力を賜りましたことにも心から御礼申し上げます。

なお大幅な実施内容の変更に伴い、本報告書では事前に各種広報物やプレス報道にて発表されてきた当初の予定から様々な点で変更がなされております。その旨、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。(3331 ART FAIR 2020 事務局)

会期 2020年3月18日(水)～3月22日(日) 計5日間

時間

3月18日(水) 14:00 - 20:00 *プレビュー / INVITATION ONLY
3月19日(木)～21日(土) 12:00 - 19:00
3月22日(日) 12:00 - 18:30

<入場予約時間内訳>

3月18日(水) 14:00 - 16:00 / 16:00 - 18:00 / 18:00 - 20:00 *プレビュー / INVITATION ONLY
3月19日(木)～21日(土) 12:00 - 14:00 / 14:00 - 16:00 / 16:00 - 19:00
3月22日(日) 12:00 - 14:00 / 14:00 - 16:00 / 16:00 - 18:30

会場

3331 Arts Chiyoda (〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14)

時間指定付きチケット (ガイドブック付 / 要事前予約)

【一般】1,500円 ※一部エリア無料 ※高校生以下無料 ※千代田区民は身分証明書のご提示で無料
※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料 ※期間中再入場可 (但し、要事前予約)

【前売り券】1,000円 ※ArtSticker

主催 アートフェア 2020 実行委員会

後援  駐日韓国文化院
 台北駐日経済文化代表処
台湾文化センター

協賛  Tansei Display  COEDO

コミュニケーション
パートナー **The Chain Museum**

協力 アートのある暮らし協会、株式会社ジャパンビバレッジホールディングス、ストリートメディア株式会社、ソフトバンクロボティクス株式会社、ダイソン株式会社、株式会社大同、パトロンプロジェクト、美術Academy&School、ワンピース倶楽部、COPAINS de 3331、FORMOSA ART FAIR、OSAJI、3331 Galleries

メディアパートナー ART iT、月刊「Art Collectors」、月刊「美術の窓」、art in ASIA、Art In Culture、月刊ギャラリー、CINRA.NET、Tokyo Art Beat、ハフポスト日本版、美術手帖

パートナーホテル NOHGA HOTEL

パートナーイベント アートフェア東京2020、ART in PARK HOTEL TOKYO 2020、ART FUTURE

開催のご挨拶

ディレクターステートメント

アートというフィールドの豊かさは、「寛容性と批評性」に支えられている。
それは、いかなる表現が生まれようとその存在を全て受け止めようとするものであり、どんな価値観に対してでも正面から対峙し忸度ないメッセージを生み出すということだ。
3331 ART FAIRの目指すところは、この「寛容性と批評性」が同時多発的に創発するフィールドを開拓していくことである。
全国各地のキュレーターやギャラリスト、評論家、ジャーナリストが一堂に会し、同時代を生き抜くアーティストとコレクターに光を当てる。
そして、オルタナティブなアートフィールドが、既存の「芸術性と市場性」を問い直す原動力になっていくのである。

3331 ART FAIR 総合ディレクター
3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター
中村 政人

開催のご挨拶 (2020年3月18日時点)

この度、新型コロナウイルス等の社会状況を鑑みて「3331 ART FAIR 2020」の開催を従来の公開形式より、完全予約制による限定公開形式に変更して開催することとなりました。また、当初の企画とは異なる会場構成や運営方法での実施に伴い、「アートフェア2020実行委員会」を立ち上げ3331 ART FAIR 2020の主催者といたします。このような状況下ではございますが、フェア形式以外でのアーティストの表現・発表の場について、オンライン展示・販売を含むさまざまな可能性を慎重に検討致しました上で、このような判断に至りました。
実施内容の変更に伴い、本来の形での開催を期待して下さっていた皆さま、ご協力いただいております出展ギャラリーや出品アーティスト、協賛・協力各社ならびにパートナー各社の皆さまなど、関係者の方々には多大なご迷惑をおかけしておりますこと心よりお詫び申し上げます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月18日

アートフェア2020実行委員会
共同代表 佐藤 直樹
共同代表 中村 政人
委員 O JUN
委員 遠山 正道
委員 宮本 武典
会計 佐々木 浩一

開催に寄せて (2020年3月18日時点)

現在が「非常時」であることは疑いありません。その中でわたしたちはどのように対処すべきか。今回、予定されていた3331 ART FAIRの規模を縮小し、「完全予約制による限定公開形式」に変更して開催することが、考え得るかぎりの策であると判断しました。日々の営みを「とにかく中止」することはできません。生きていくために必要な他の経済活動のお手本にもなれるレベルの危機管理を目指して、無事に会期を終えるまでの努力を継続します。

佐藤 直樹

現在の新型コロナウイルスが引き起こしている危機的状況は、東日本大震災時の放射能に対する不安感を想起させるような状況になってきています。

今、私たちはあの時のように、些細なことでもアイデアを出し課題解決に向かうアクションを共に創りだす必要があるのではないのでしょうか？

3331 ART FAIRにおいては、この状況の中で、「つくること生きること」であるアーティストの場を消すことなく、また社会での役割を担うために、実施内容を大きく縮小変更して開催する判断に至りました。実施内容の変更に伴い本来の形での開催を楽しんでいた皆さま、またご出展予定ギャラリーや関係者の皆さまには、このような実施形態となり、ご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

中村 政人

現在、コロナ禍による世界的な感染拡大の状況のなかであらゆる公共の施設、様々なイベント、展覧会等がその影響を受け自粛するという事態が起きています。このような“非常時”のなかで人の行動の何が問われるか？私は 芸術活動がそれを行うためには作家のみならず、運営、鑑賞者、本来ならば行政も含めて協力する機会と場がつけられるよう各々が想像力を働かせ努力する社会こそが必要であると思います。今回のアートフェアはそのために保健所の指導のもと徹底した防疫と安全に努め、当初のかたちから現在の状況に対応した環境整備に尽力しています。それはいかなる時においても芸術の水脈を枯らさずそのためには共に育てようとの希望と意志に他ならないからです。「表現をしたい」、「それを見たい」、「それを見せる場をつくりたい」、私たちは切実な思いを胸にいかなる状況においても時代の最前衛にいたいと願います。今、それを私たちは自らに、また私たちの社会が問われていると思います。私は最善の努力と方法をもってこの機会に臨みたいと思っています。

このことを皆さんと力を合わせて実現したいです。

○ JUN

数値報告

総来場者数

1,777人 (5日間)

*新型コロナウイルス感染防止の観点により、来場者数を大幅に抑制する為、全日程時間指定による事前予約制にて実施する。

*総来場者数は、B1F・2F・屋上の無料エリアを含む。

*1Fメインギャラリーは、常時会場内の人数を把握した上で、来場者の滞留時間が少なくIN/OUTの回転が速い時間帯には、若干数の当日券を発行し来場を可能とした。

*入場者数制限に関する詳細は「[[資料2] 新型コロナウイルス等の感染防止対策」の項目を参照のこと。

<参考実績>

・2019年来場者数：22,206人 (5日間)

・2018年来場者数：20,140人 (5日間)

*いずれも入場制限、事前予約なしでの開催

出品作家・出展ギャラリー・団体

[1F-Main Gallery/Lounge]

推薦者：11名、9団体 (Lounge展示の3団体を含む)

出品作家：67組

[Galleries-B1F/2F]

出展団体：6団体

出品作家：14組

[ROOFTOP]

推薦者：1名 (推薦者によるキュレーション展示)

出品作家：6組

[Art Projects]

出展団体：4組

[Satellite Venue (NOHGA HOTEL UENO)]

出品作家：1組

プライズセクター

103名

プライズ

2



プライズセクターについて

著名コレクターから企業人、クリエイターなど、各界のキーパーソン103名に「プライズセクター」として3331 ART FAIR 2020にご参加いただきました。プライズセクターが購入した作品には「コレクター・プライズ」が授与され、会期中会場内で順次発表いたしました。

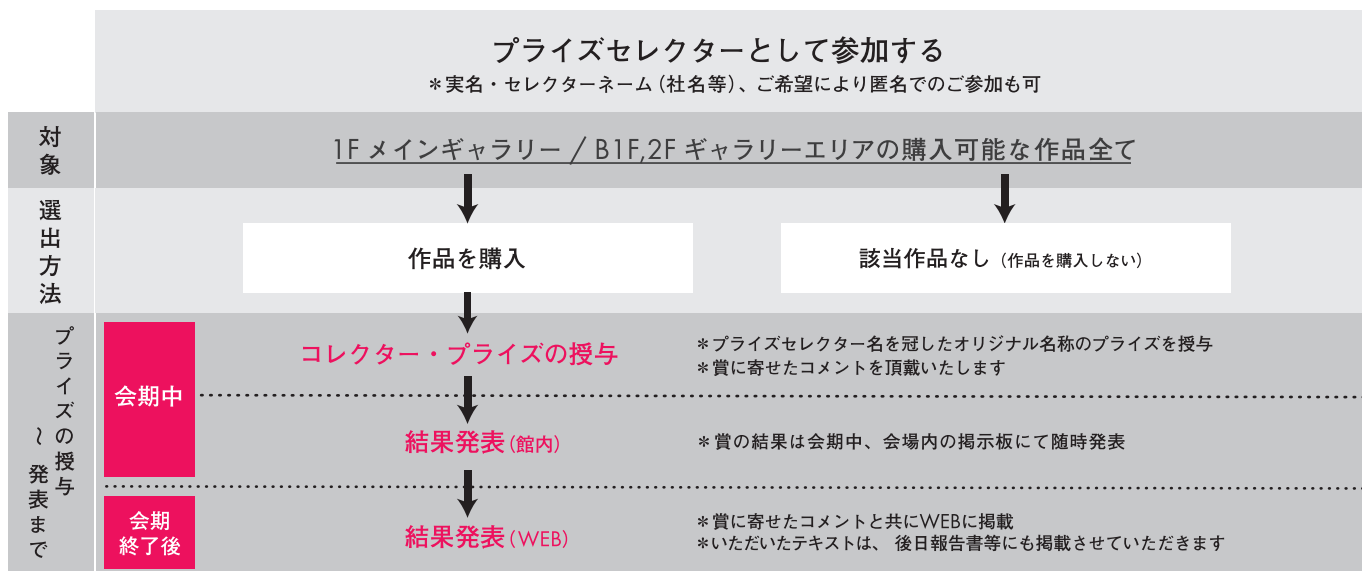
3331 ART FAIR では、小さな作品でも作品を購入することは作家を直接支援することであり、芸術と芸術家たちを社会の中で育てていく第一歩であると考えています。本年は、新型コロナウイルス感染拡大で苦境に立つアーティストへの支援 (=作品購入) という観点から、3331 ART FAIR 開始当初より継続してきた「コレクター・プライズ」の意義を大きく実感できるものとなりました。

3331 ART FAIR 2020

プライズセクターご参加の仕組みとプライズ授与の流れ

プライズセクターの方が購入された作品に賞が授与されます。

コレクター・プライズとは「作品を購入すること」＝「作家に賞を授与すること」。



3331 ART FAIR レコメンドアーティストの選出

コレクター・プライズならびにオーディエンス投票等の結果をふまえ、3331 Arts Chiyodaが選出した若手作家が3331 ART FAIR レコメンドアーティストとして3331 Arts Chiyoda内で個展を開催

3331 ART FAIR × ArtSticker

心を動かされる作品と出会ったら、ArtStickerで感想を届けよう。
あなたの声が、アーティストの新たな創作の原動力になります。



3331 ART FAIRは、ArtStickerを通じた作家支援の仕組みを導入しております。詳細はartsticker.appをご覧ください。

プライズセクター一覧

Art Collectors'

アートのある暮らし協会
Art Life Styling Association

ART BASE88(宮本 初音)
ART BASE88(Hatsune Miyamoto)
ART BASE 88 代表
ART BASE 88 Director

天羽 絵莉子
Eriko Aino
アートプロジェクト事務局職員
Administrator of art practice project

安藤 雄二
Yuji Ando
ペライフメディアジャパン株式会社 取締役
Verizon Media Japan KK, Head of Media

石鍋 博子
Hiroko Ishinabe
ワンピース倶楽部 代表
President, One Piece Club

伊藤 洋志
Hiroshi Ito
働く人のためのアートコレクションを学ぶ会
Art collector club for workers

稲田 多喜夫
Takio Inada
ランドスケープデザイナー
Landscape architect

稲葉 智子
Satoko Inaba
アーツ千代田 3331 広報 / プログラムコーディネーター
3331 Arts Chiyoda Press/Program Coordinator

井上 智治
Tomoharu Inoue
一般財団法人カルチャー・ビジョンジャパン 代表理事
Board chairman, Culture Vision Japan Foundation Inc.

猪熊 敏博
Toshihiro Inokuma
社会人
Creative Director

岩垂 なつき
Natsuki Iwadare
アーツ千代田 3331 広報
3331 Arts Chiyoda Public Relation

エミリー・マクドウェル
Emily McDowell
AIR 3331 コーディネーター
AIR 3331 Coordinator

大石 哲之
Tetsu Oishi
アートコレクター
Art Collector

太下 義之
Yoshiyuki Oshita
独立行政法人国立美術館 理事
National Museum of Art Executive Director

大西 正紀
Masaki Onishi
株式会社グラントレベル
Ground Level Co., Ltd.

大原 高文
Takafumi Ohara
税理士
Certified Public Tax Accountant

大森 洋三
Yazo Omori
ストリートメディア株式会社
Sneetmedia Inc.

奥岡 新蔵
Shinzo Okuoka
株式会社TRICERA 執行役員
TRICERA, Inc.

小野 道生
Michio Ono
都市計画設計研究所
Urban Design and Planning Institute

皆藤 将
Masaru Kaido
美術学校
Bigakko

株式会社アフタヌーンソサエティ
Afternoon Society Co., Ltd.

株式会社丹青ディスプレイ
Tansei Display Co., Ltd.

亀井 博司
Hiroshi Kamei

川村 喜久
Yoshihisa Kawamura
一般財団法人 川村文化芸術振興財団
Kawamura Arts and Cultural Foundation

キース・ホワイトル
Keith Whitele
顧問 / アソシエイトキュレーター
CEO / Programme Director

木下 栄三
Eizo Kinoshita
有限会社エーク 取締役社長
CEO, EQUÉ limited Company

木村 博行
Hiroyuki Kimura
アーツ千代田 3331
3331 Arts Chiyoda

久保 金司
Kinji Kubo
NPO法人神田学会 理事
NPO Kanda-Gakkai Board members

月刊ギャラリー
Monthly Gallery

小池 一子
Kazuko Kaike
クリエイティブ・ディレクター /
佐賀町アーカイブ 主宰
Creative Director, Founder of
sagachio archives

小林 正美
Masami Kobayashi
建築家 / 明治大学副学長
Architect / Vice President of Meiji University

近藤 俊太郎
Shuntaro Kondo
茶人
Tea Master

近藤 威志
Takeshi Kondo
HATCH 代表
HATCH Representative

櫻内 昌雄
Masao Sakurachi
住友商事株式会社
Sumitomo Corporation

笹川 直子
Naoko Sasagawa
株式会社クィーン 代表取締役 /
コミュニティサロン「Grenier」 主宰
Queen Co., Ltd. /
Community Salon "Grenier"

佐野 吉彦
Yoshihiko Sano
安井建築設計事務所 代表取締役社長
President, Principal Architect,
Yasui Architects & Engineers, Inc.

佐井 泰平
Taihei Shii
スタートバーン株式会社 代表取締役
Startbahn, Inc. CEO

塩見 有子
Yuko Shiomi
NPO法人アーツ・インシアティブ・ウエストウ
[AIT/エイト] 理事長
Director, Art Initiative Tokyo

宍戸 遊美
Yuumi Shishido
アーツ千代田 3331 ジェネラルマネージャー
3331 Arts Chiyoda General Manager

柴山 哲治
Tetsuji Shibayama
株式会社AGホールディングス 代表取締役
AG Holdings Corporation
President & Managing Director

嶋津 充(ワンピース倶楽部)
Mitsuru Shimazu (One Piece Club)
ワンピース倶楽部 関西支部
One Piece Club

島林 秀行
Hideyuki Shimabayashi
Art Lover

白木 聡
Satoshi Shiraki
アートコレクター
Art Collector

須川 和也
Kazuya Sugawa
安田不動産株式会社 常務執行役員
YASUDA REAL ESTATE Co., Ltd.
Managing Executive Officer

鈴木 真悟
Shingo Suzuki
アーティスト / グラフィックデザイナー
Artist / Graphic designer

鈴木 朋幸
Tomo Suzuki
プロデューサー
Producer

鈴木 夢乃
Yumeno Suzuki
ユトリエ マネージャー
yutoriie, manager

住吉 慶太
Keita Sumiyoshi
東邦設備機工株式会社 代表取締役 /
アートライカかわ代表
President & CEO, Toho Machinery
Co., Ltd. / President, Art Line Kashinwa

傍嶋 賢
Ken Sobajima
SOBASUTA合同会社
SOBASUTA LLC

高井 勇輝
Yuki Takai
株式会社ソフトウェアワーク クリエイティブディレクター
Creative Director, Lohwork Inc.

武内 竜一
Ryuichi Takeuchi
映像プロデューサー
Video Producer

太刀川 英輔
Eisuke Tachikawa
NOSIGNER 代表
NOSIGNER Representative

田中 元子
Motoko Tanaka
株式会社グラントレベル
Ground Level Co., Ltd.

玉置 真
Makoto Tamaoki
合同会社玉置プロダクション 代表、インストーラー
Tamaoki Production LLC CEO, Installer

玉置 泰紀
Yasunori Tamaki
株式会社KADOKAWA
エグゼクティブプロデューサー
KADOKAWA CORPORATION
EXECUTIVE PRODUCER

田村 悠貴
Yuki Tamura
NPO法人職員
Staff of nonprofit organization

ツツミ エミコ
Emiko Tsutsumi
版画家・オトエガク(音絵楽)アートディレクター
Printmaking artist, otsoegaku, Art director

DJ KaceK (かいすけ)
DJ KaceK
アートアクティヴィスト
Art Activist

寺内 俊博
Toshihiro Terauchi
西武・そごうアートディレクター
SEIBU-SOGO Art Director

道明 葵一郎
Kiichiro Domyo
株式会社道明 代表取締役
DOMYO Co., Ltd. Representative Director

遠山 正道
Masamichi Toyama
株式会社スマイルズ 代表取締役社長 /
株式会社The Chain Museum 代表取締役
President, Smiles Co., Ltd. /
Chief Executive Officer, The Chain Museum

特定非営利活動法人 Art &
Society 研究センター
Nonprofit Organization Art &
Society Reserch Center

徳光 健治
Kenji Tokumitsu
株式会社タグボート
TAGBOAT Inc.

中尾 浩治
Koiji Nakao
合同会社アートマネジメント・しなまみ CEO
Art Management Shimanami CEO

中尾 豪
Suguru Nakao
美術Academy&School 代表
Bijutsu Academy&School Director

長瀬 千雅
Chica Nagase
編集者、ライター
news editor, writer

中村 政人
Masato Nakamura
アーティスト /
アーツ千代田 3331 総括ディレクター
Artist / Director of 3331 Arts Chiyoda

長屋 博
Hiroshi Nagaya
株式会社一貫堂 代表取締役 /
ジェイブリンク株式会社 代表取締役
CEO, Ikkan-Do Co., Ltd./CEO, J-Print Co., Ltd.

西村 英丈
Hidetake Nishimura
One HR 共同代表
One HR Co-representative

西山 沙樹
Saki Nishiyama
3331 CUBE shop&gallery

西山 学
Manabu Nishiyama
アート好き会社員
Art Lover

橋爪 勇介
Yusuke Hashizume

長谷川 逸子
Itsuko Hasegawa
建築家
Architect

長谷川 一英・恵美子
Kazuhide&Emiko Hasegawa
E&K Associates

パトロンプロジェクト
菊池 麻衣子
Patron Project Maiko Kikuchi

パトロンプロジェクト 代表
Patron Project Representative

馬場 兼伸
Kanenobu Baba
B2Architects

林 隼甫
Akio Hayashi
NPO法人インビジュアル 理事
NPO inVisible Founder

林 直樹
Naoki Hayashi
チームガラパゴス
Team Galapagos

早見 堯
Takashi Hayami
美術評論家連盟
International Association of
Art Critics

彦根 延代
Nabuyo Hikone
アーツ千代田 3331 /
アーツプロジェクト事業部 マネージャー
3331 Arts Chiyoda /
Arts Project Division Manager

広江 一也
Kazuya Hiroe
株式会社NORA 代表取締役
Executive Director, NORA Inc.

風澤 俊一
Toshikazu Fusawa
フーサワ商事株式会社 代表取締役
FUSAWA Corporation President

藤村 滋弘
Shigehiro Fujimura
BEYOND BORDERS代表
President, BEYOND BORDERS

藤谷 けい
Kei Fujiya
アーツ千代田 3331 アートディレクター
3331 Arts Chiyoda Art Director

細川 英一
Eiichi Hosokawa
アートダイバー 代表
President, ART DIVER

奔保 彰良
Akira Hamba
マイリアルビジョン代表取締役 /
アートメディア「hibiA(ひびえ)」代表
MY REAL VISION INC. President /
Art Media "hibiA" Representative

船山 雅史
Masashi Funayama
船山公認会計士事務所 代表
Funayama CPA Office

マーサン
Marson

前川 俊作
Shunsaku Maekawa
アート愛好家
Art Lover

松下 憲史
Kenshi Matsushita
金融業
Financial Planner

丸山 晶崇
Maruyama Masataka
株式会社と
TO inc.

三沢 恵子
Keiko Misawa
アートエバンジェリスト協会
教育推進部長
Education Department Director,
Art Evangelist Association

三田村 龍伸
Ryushin Mitamura
江古田ユニバース 代表
Ecoda Universe Director

都橋 はる美
Harumi Miyakobashi
Women's Networking Cafe はる美
Women's Networking Cafe Harumi

森下 泰輔
Taisuke Morishita
Art Lab TOKYO代表
Art Lab Tokyo president

山本 謙一
Kenichi Yamamoto
AURA ARCHITECTS
株式会社建築家 代表 /
アートNPO法人S-AIR 会長 /
一般社団法人 AURA総研 代表理事
AURA ARCHITECTS Co., Ltd. CEO /
art NPO S-AIR Chairman /
AURA Research Institute Director

吉田 キョウ
Kyo Yoshida
編集、ライター
Art writer, Editor

米山 貴司
Takashi Yoneyama
株式会社 米山富次郎商店
yoneyama tomijirou syouten

リンダ・デニス
Linda Dennis
女子美術大学 准教授
Joshiibi University of
Art and Design Associate
Professor

渡辺 実
Minoru Watanabe
自由業
Freelance

匿名
Surprise Selection
某美術館学芸員
Curator, art museum

匿名
Surprise Selection
アートコレクター
Art collector

コレクター・プライズ結果発表

Art Collectors' [Art Collectors'賞]

ユアサ エボシ

戦前生まれの架空の三流画家「ユアサエボシ」として制作しているユアサエボシ。どこか懐かしさがありながら、トリミングの取り方に独自のセンスがある。今回購入した作品は少し前に制作されたコラージュであるという。今のペインティングにも通じる要素があり、創作の原点を感じさせる。

アートのある暮らし協会 [ALSA 大賞]

副島 しのぶ

感情を持ち、涙を流すのは人間だとばかり思っていましたので驚きました。単純に、リアルすぎてか、私の気持ちと同化し、心が動きました。人間という生き物を、ものすごく研究されていることと思います。新分野の発見!! アートの世界でどのように活躍されていくのか楽しみです。頑張ってください! 同郷ということで、心から応援しています!!

ART BASE 88 (宮本初音) [ART BASE 88 (宮本初音)賞]

犬和紙

勢いあってヨイと思いました。たくさん挑戦してほしいです。

稲葉 智子 [稲葉智子賞]

飛田 正浩

来場者と作家が会話をします。そこで生じるリズムやフィーリング、話の内容を作家は全て受け止める。そして、作家はその人のために言葉を選び、その言葉をその人の衣服にプリントする。

楽しく雑談しているだけのように思えて、いつの間にか作家の行為に巻き込まれている。自分を少しだけ晒してみることが、他者の行為に巻き込まれることにも、思ったより抵抗がない。

それは、飛田正浩さんの人柄に由来する部分も大きいだろうし、常々「楽しいこと」として捉えている「ファッション」を介しているからかもしれない。

贈られた言葉は、その人のステイトメントになり、それを着て歩くことはパフォーマンスだ。言葉を衣服にプリントするという行為が、新たな行為を生みだしている。飛田さんは、そうして街の景色を変える。

岩垂 なつき [イワダレ賞]

堀内 悠希

堀内さんは日常の中でこぼれ落ちてしまうポエジーのかけらを拾い集めてくれる作家である。

波間の連なる様子が歪んだボーダーのように見えるという一瞬の目の錯覚。それは多くの人がふと思いついたとしても、取るに足らないものとして、頭の中から消し去ってしまう。しかし、それは本当に「取るに足らない」ものなのだろうか。もしかしたら享受すべき世界の美しさは、そこにこそあるのではないだろうか。

私はこの気づきを心に留めておくために、作品を購入し、これからも眺め続けることにした。

エミリー・マクドウェル [EM賞]

Fernanda Feher

フェルナンダ・フェヘルのパインティングは、どんな舞台であっても必ず彼女の独特な世界として映し出される。「フェルナンダビジョン」とも呼べるのではないのでしょうか。今回購入した「Up in the Upperwest」は、高層ビルをまるでジャングルのように渡り登るワイルドな女の子が見つめるニューヨークで、それは実際にフェルナンダが過去にとったボラロイド写真が溶け込む風景となっている。遊び心やファンタジーと同時に、記憶やノスタルジーを通してアーティストと親密な関係を築ける作品であり、私は見るたびに喜びを感じる。

太下 義之 [太下賞]

小川 武

小川武氏の名前はアート業界ではまだまだあまり知られていないかもしれない。彼の作品は、観葉植物をモノトーンの写真に撮り、それをシルクスクリーンでポスター仕立てにしたものである。たとえば、真夜中の温室にて、眠っていた植物たちの不意を突いてフラッシュを焚き、植物たちが驚いているシルエットをプリントしたかのような作品たち。それらの作品には、まるでインディーズのロックバンドのCDジャケットのように、斬新さと洗み感が同居している。

小野 道生 [小野道生賞]

堀内 悠希

どちらかと言えば陰りのある気配をまとった青を基調としたグラデーションがとてもすてきでした。作品の中にタイトルがはっきりと書き込まれていますが、それにも関わらず(あるいはそうだからこそ)、絵の全体から受ける心象はそう簡単にはしっくりとこなくて、絵とタイトルが近づいたり遠ざかったりしながら、観ている僕とも近づいたり遠ざかったりしながら、そうしているうちに水彩のにじみのようにじわじわと沁み込んできました。入り江に面した高台から眺める海面のように見飽きませんでした。

和島 ひかり

黒いスクリーンに描き出されるシンプルで素朴であたたかみのあるアニメーション。思わず足を止めて観続けてしまいました。惹き込まれました。言葉にならない/できないけれど確かに自分の内に起こっている感情の揺れや息吹が託された ART (あるいは HEART) からは、やさしさや誠実さやちよつぱり不器用な感じと同時に簡単には折れない芯の強さを感じます。ループされる作品から柔らかに放たれたそのバイブスに浸っているうちに、自分の心が落ち着きと清らかさを取り戻していくのを感じました。

株式会社丹青ディスプレイ [丹青ディスプレイ賞]

やなぎさわ ひろ

川村 喜久 [川村文化芸術振興財団賞]

岩崎 貴宏

平野 真美

木村 博之 [木村博之賞]

ユアサ エボシ

『ユアサエボシ』の作品とユアサエボシの作品が交錯し、また解かれ生きる時代は違えども、時代を紡ぐその制作過程は、他我を見つめ直すキッカケになるかと存ずる。彼方の作品に魅かれたのはその背景に勿論、異を唱えるつもりは毛頭なし、さらに云うならば享乐的とし、フィクションとも捉えられる物語を制作の一部とする貴方を心より尊敬しております。

貴方の作品に生涯で出会え、感動したこの時を決して忘れません。

小池 一子 [小池一子賞]

宇平 剛史

アーティストは光を読む人である。光の表情に色彩を読む人でもある。「Skin」のモノクロームに相対して私はとっさにそう思った。フェアの会場で私の傍にはドイツで活躍するミニマル・アートの作家がいて、吸いよせられるように二人で宇平のモノクローム作品の前で立ち止まってしまった。私たちはなぜこんなにもモノクロームの表現に惹きつけられるのか。

宇平の作品は人の肌を主題にした連作で、見る者はひたすら肌が滲る光の表情に対峙するしかない。黒い肌を撮っていれば表面は黒である。だがそれは黒から白への光のディグリーを感じさせる層をなした色彩の海でもあるのだ。美術史の中のモノクロームの大河へ、ようこそ。そのような発見の喜びを私は今回のアートフェアで体験した。

近藤 俊太郎 [アバンギャルド茶会賞]

小川 武

何気ない日常の風景を切り取り、色を取り除いてモノクロに変換する。極めつけは「手刷りシルクスクリーン」。
デジタル化が進む世の中に反して、そぎ落としていく作品形式は茶の湯における「マイナスの美学」に通じるものを感じました。
なんでもデジタルな風潮にあえてアナログにこだわるのもすごく共感です！

笹川 直子 [SASANAO賞]

BCL / Georg Tremmel

Houxo Que (Gallery OUT of PLACE)

佐野 吉彦 [春告鳥賞]

堀内 悠希

作品のなかに光の生成と消滅がある。さまざまな素材でのチャレンジがたのしみです。

櫻内 昌雄 [アートで生きる賞]

Mirim Chu

4月から大学生になる長女が自分で選びました。気分が晴れやかになる素敵な絵だと思えます。

施井 泰平 [泰平賞]

Fernanda Feher

ユアサ エボシ

塩見 有子 [塩見有子賞]

和島 ひかり

柴山 哲治 [AG ホールディングズ賞]

上野 裕二郎

アーティストの作品制作における哲学モチーフへの洞察力に感銘を受けた。将来性のあるArtistである。

嶋津 充 (ワンピース倶楽部) [嶋津充賞]

ユアサ エボシ

須川 和也 [粋な神田で賞]

やなぎさわ ひろ

最近新しい家に引っ越したので、そこに飾ります。

鈴木 夢乃 [ユトリエ賞]

石場 文子

冬耳

住吉 慶太 [住吉慶太賞]

古賀 学

立体だと思っていたらプリントだった！フィギュアかと思っていたら本当に女性だった！制作過程をお聞きしてさらに驚いた！良くも悪くもショックを受けた作品です。もちろんとっても気に入りました。

傍嶋 賢 [SOBASUTA賞]

開藤 菜々子

初めまして傍嶋です。丁寧で綺麗な作品でとても良かったです！ Sobaken

武内 竜一 [武内竜一賞]

Houxo Que (Gallery OUT of PLACE)

ツツミ エミコ [ツツミエミコ賞]

和島 ひかり

今回始めてデータ作品を購入しました。
和島さんはおそらくアニメーションという手法だけではなく他の技法もこれからチャレンジなさる方と感じました。
見えないものを可視化する日本独特の概念を世界に共震せていく手法はこれからどんどん出てくると思うので「ことだま」の着眼点はこれからもっと発展すると思いました。

DJ KaceK (けいすけ) [DJ KaceK 賞]

作品から想起する楽曲となっています。

Mirim Chu

Pushing and shoving the big city Tokyo,
Once under her spell from the sky,
Even dusty asphalt fragments can tempt us.

過密都市、東京。
でも、彼女の魔法が天空から降り注げば、
ほら、アスファルトのかけらすら、愛おしい。

Steppin' Out by Joe Jackson,
Recommended by KaceK

冬耳

If you have a kaleidoscope
that shows your future.
Just rotate it!
The future is in your hands.

未来の覗ける万華鏡？
変えたいなら、自分の手で
回してごらん。

Lucy In The Sky with Diamonds
By the Beatles,
Recommended by KaceK

前田 エマ

A sunny day is not the only nice day.
I prefer a rainy day.
I know black-and-white is
colorful.

良い天気って、晴れの日だけ？
雨だって、良い天気かも。
モノクロって実はカラフル。

Both Sides, Now by Joni Mitchell,
Recommended by KaceK

道明 葵一郎 [有職組紐道明賞]

貴志 真生也

後藤 有美

遠山 正道 [遠山正道賞]

石場 文子

あいちトリエンナーレで出会って、やられたというか膝を打つというか一人ニヤリとして暫し立ち止まった。ここ3331でまた出会って、自分の日記の時間軸が立体化したような気がした。

輪郭は日本画の御家芸で、だから平面的にあたまのなかで転換するのか。しかし、アーティストって楽しい。

江上 越

VOCAで一番印象に残った作品が、ここにあった。大胆な筆致で、ブロック化された大きなピクセルのようであり深夜のブラウン管のようでもある。

私は時として描き込まれすぎた感情過多なペインティングよりも客観的に切り出した写真作品に惹かれることが多く、江上のそれも、描き込み様のないスピードある筆致が、だからこそその向こうに隠れて現れてくる対象と出会えた気がした時の、共通言語のようなものが、うれしい。

小川 武

枝なのに、艶かく、クール。

後輩がバーをひらき作品を貸してくれと言われたら差し出ししたい一枚。港区でも江東区でもいいけ。

副島 しのぶ

「人形が悲しみを演じるとき」

人形が悲しみを演じていながら、本当に泣いてしまったように見える。短く、直球ながら、観ている人の感情のスイッチをそのままupしてしまう作品。

飛田 正浩

コミュニケーションできて、作家が鑑賞者を観察して、作品を着用できる。

アートが実用品であったって、いいじゃないか。

永井 天陽

こういう反射神経的な作品好きです。

値段も反射神経で買えて良い。そうやってコミュニケーションが形成される。Skin#1 #2 もほしいな。

吉村 宗浩

こういう物語に沈殿していけるピュアな作品はうれしい。

3つ頂いたが、ブランデーにソーダとレモンでも絞って飲みながら3つを紐付けるストーリーを綴りたい。

吉村氏から現場で話をお聞きできたのも有難く、この主役の女子は、スポーツウーマンで垢抜けず、慣れないデートに、大きく不格好なリボンをつけてしまっている、と聞いた。物語がスタートした。

そして私自身人物不在の“足場”という作品に最も心惹かれていることが気になっている。

和島 ひかり

ほくも、こうやって、自分を観察して、言葉にできないものも、こうやって何とかしてみたいなと思いました。

眠っていて、何だか思いついてメモしてみたみたいなの、探れたての観察、そういう周辺に、きつと表現っていうのがあのような気がします。

中尾 豪 [美術 Academy&School 賞]

やなぎさわ ひろ

中村 政人 [中村政人賞]

石黒 健一

小田 香

西山 沙樹 [西山沙樹賞]

木原 千春

一昨年冬、どら焼きで有名な「うさぎや」のカフェに行くことができました。そのとき私の心を捉えたのは、どら焼き以上に店内に飾られている和装の女性のペイントでした。

とにかくクールで、上品で、力強い。オーナーに作家の名前を伺いましたが、そのときは結局わかりませんでした。

そして今回のアートフェアで、同じように和装の女性がモチーフになっている作品が出展されると知った瞬間、2年前カフェで観たあの作品を思い出し、とてもトキメキました。

あれは、木原千春さんの作品だったのか!。この出会いがとても嬉しかったです。

早く作品を拝みたいです。(本当は赤と青の作品も迎えたい気持ちでいっぱいです)

吉村 宗浩

シュールでヘンテコでおもしろいというのが第一印象でした。淡々と、飄々としている絵。なんというか、味があります。観れば観るほど美味しい。

気づけば描かれた人物を観察して「この男は何を見て、何を思っているのだろう」と想像してしまいます。そうしているうちに自分も絵画の中に入り込んでしまっているのです。

滝壺を眺めているだろう彼らの表情はなんともミステリアス。(何も考えてないんじゃないか? という表情をしています。)

そもそも、そこらへんにいるような冴えない5人の男が滝壺を覗き込んでいるという状況もシュールで謎めいていてクッとしてしまう。

どれだけ眺めても飽きない作品です。他の作品もすべてとても魅力的でした。

西山 学 [西山学賞]

富安 由真

心霊や神秘学などで話題となる作家さんですが、理論が優先される欧米発祥の現代アートに対比した、仏教的、レナマ的に観るべき作品を描かれていると感じました。

パトロンプロジェクト 菊池 麻衣子

[パトロンプロジェクト 菊池麻衣子賞]

前田 エマ

パトロンプロジェクト菊池麻衣子賞としては、モデルで作家の前田 エマさんの作品を購入しました 🍷 同じ 3331 アートフェアに出品されていた小林 正人さんの作品とシンクロするように木枠から大胆にはみ出るキャンバス地

そこに弾むピンクや黄色に未来へと続くアートスピリットを感じました (^_^) その日私が来ていたワンピースもピンク色のアニマルドット柄で、前田 エマさんの作品と共鳴していたことに気が付きました!! エマさんにお会いして直接作品について伺える日を楽しみにしています。

林 曉甫 [林曉甫賞]

後藤 有美

例えば震災や被災の地域に残された一枚の写真を彼女に手渡したとき彼女はどのような作品をつくるのかなどを考えながら作品を探見しました。

平面に写された世界の要素を分解し、それを加工し立体化できる彼女の視点と技術はきつとそのつくるプロセスも含めて多くの人の関心を惹きつけるものだと思います。長期レジデンスなどでその場所や時間だから作れる表現を見てみたいです。

彦根 延代 [彦根延代賞]

飛田 正浩

飛田さんが今回のフェアで出品した作品は、自分が今着ている服（もしくは持参した服に）アーティストが直接現場でプリントをし、そのメッセージを共有して成立する作品です。コロナ禍の只中のフェア開催ということで、例年とは違い、緊張が極限まで達した状態で迎えた初日。その日私が着ていたジャケットの右肩に、飛田さんがプリントして下さったのは「表現の自由」という言葉と、可愛らしいお花のマーク。使用されたフォントも柔らかくポップで、強い言葉にも関わらず、全くもって押しつけがましくなく、ソフトな印象。プリントを纏った瞬間、右肩にずしりとこの言葉の責任の重さが乗った感覚と、背筋にはびしりと芯が通った感覚がしました。その後フェアの会期が進むにつれて、プリントのデザインが醸す柔らかい雰囲気のように、日に日に気持ちも右肩も軽やかになっていきました。不思議です。きっと会期中に多くの作家さんや来場者の方から激励の言葉をいただいて、「フェアの開催は間違いじゃなかったんだ」と、確信に近い感情が生まれてきていたからなのかもしれません。

後日飛田さんから「あなたへのプリントが（アートフェアの）スタッフ内に火を付けましたね。」という言葉頂きました。いえいえ、飛田さんが私やスタッフに火をつけて下さり、自分も飛田さんの作品の一部になって、飛田さんが纏って下さった言葉とともに会期を全うすることができました。・・・今回は、そのような極めてパーソナルな思いで、プライズを選ばせて頂きました。

風澤 俊一 [風澤俊一賞]

O JUN

藤谷 けい [藤谷けい賞]

飛田 正浩

飛田さんが主宰する spoken words project のお洋服は、まだ私が20代の頃、幼馴染が勤めていた渋谷にある Desperado というセレクトショップに通いつめていた頃から知っていました。可愛いだけではなく、その中にパンクと自由さを感じるそのブランド精神をどこかに感じているから、年齢を重ねた今も着続けています。今回このような事態になってしまい開催さえ危ぶまれた時に、事務局スタッフとして飛田さんとメールでやりとりさせていただいた中で「こんな時にアートはどうしたら良いのでしょうかね」という問いかけをいただき、その一つのお返(態度)となるようなアートフェアを目指し、開催までなんとか漕ぎつけたような気がしています。作品を制作してもらうにあたり、スポークとの出会いの場所 Desperado で何年も前に購入したポロポロのシャツをお渡しし、そこに極めて個人的な会話がプラスされ、「愛が尽きた」と入れていただきました。そして「この作品を更新してください」とのコメントも。この奮い立たせるような言葉のチョイスも含め、やはり言葉と会話するパンクな方だと思いました。

船山 雅史 [船山賞]

須永 有

既成の支持体でなくうねる鉄板を大胆に使うことで視点を移動すると絵の違う面が見える。力強さを感じる。

前川 俊作 [前川俊作賞]

南谷 理加 (Bambinart Gallery)

南谷さんの作品は初見で惹かれました。ただ、どこが良いと言語化するのが難しい。細かく言えばシュールな構図、とか自然と人間にヒエラルキーを感じさせない、などと指摘することはできますが、その魅力を言い当てていると思えない。言い換えればずっと見ていられる。つまり良い絵だと思いました。

丸山 晶崇 [ミュージアムショップ・ティ賞]

後藤 有美

三沢 恵子 [アートエバンジェリスト協会賞]

小川 武

生い茂る植物に囲まれているアーティストの仕事場の匂いが想像できる。呼吸する生命。作品は物質で、色味はない。ある意味、日常の記録の延長として生み出されたマテリアルなものだとしても、確実にそこに生命は在る。コースのように、ユッカと作品と言葉を並べて飾ってみようか。作品に向き合ったとき、ギャラリーのようにひっそりと、或いは温室のようにしっかりと、空間は息づく。

都橋 はる美 [都橋はる美賞]

上村 菜々子

これから何かが始まりそうな足先に惹かれました。こんな時だからこそ軽やかなステップで。

森下 泰輔 [アートラボで賞]

Houxo Que (Gallery OUT of PLACE)

Houxo Que は、液晶モニターと蛍光アクリル絵具を用い、現代の表象関係とイメージ環境それ自体を主題にしている。昨年、京橋の戸田建設ビルで開催された展示では、地下に水槽を作りLEDビームで周期的に色彩を変化させていた。ミニマリズムと情報環境、あるいは絵画論の延長線上において現時点の表現として優れている。

山本 謙一 [アウラ賞]

開藤 菜々子

東 芋 (Gallery KIDO Press)

やなぎさわ ひろ

建築家として素直な日常空間への気持ちから、今回の AURA (アウラ) 賞は直感的に、こんな作品が日常空間にあれば飾りやすくていいだろうというそんなイメージで選ばせていただきました。

リンダ・デニス [デニス アワード]

池田 嘉人

飛田 正浩

堀 聖史

匿名 [01 賞]

上野 裕二郎

上野裕二郎の作品では、動物や鳥が荒々しいタッチで、まるでほどけて周囲の空間に溶けていくように描かれている。生物は日々飲み食いし排泄し続ける。私たちは日々新たな情報に触れ、そのほとんどを忘却していく。生物を構成する要素は常に流動していくのに、私たちはどうして完結した個体でいられるのだろうか。私という意識をここに繋ぎ止めているのは何なのか。考えれば不思議なことである。この作品はこうした動的平衡にある生物のあり様を、改めて気付かせてくれるように思えるのだ。

3331 ART FAIR オーディエンス・プライズ レコメンドアーティスト結果発表

オーディエンス・プライズ

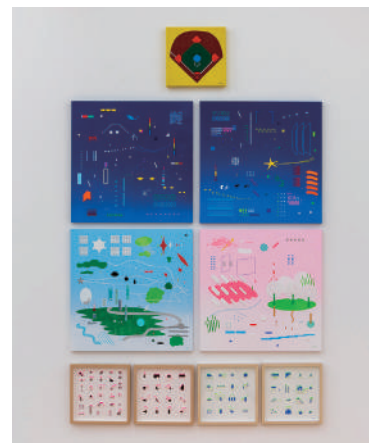
3331 ART FAIR 2020に来場頂いたお客様を対象に、オーディエンス・プライズ（来場者投票）を実施しました。
上位3名の結果を発表します。（順不同）



平野 真美 Mami Hirano



石原 英介 Eisuke Ishihara



ミリン チュウ Mirim Chu

3331 ART FAIR レコメンド・アーティスト

各プライズの結果を踏まえ、アーツ千代田 3331による厳正なる検討の結果、2名の若手作家が3331 ART FAIR レコメンドアーティストに選出されました。選ばれたアーティストには、3331 Gallery（アーツ千代田 3331 1F 108）での個展開催の機会が授与されます。会期等の詳細が決まり次第、アーツ千代田 3331のウェブサイト等でご案内して参ります。



展示風景
「変身物語 METAMORPHOSES」シリーズ
レントゲンフィルム、シャウカステン、ガラスほか（技法・素材は作品によって異なる）
2020年

平野 真美 Mami Hirano

作家の言葉：

「亡くなった愛犬や幼少の頃のパートナーなど、「もういないもの」としての非実在生物の生体構築、生命の保存あるいは蘇生に関する作品制作を行う。近年制作を継続している『蘇生するユニコーン』は、非実在の生物であるユニコーンを制作によって実在させ蘇生する試みであり、その過程を段階的に発表・アーカイブ化する個人のプロジェクトである。ユニコーンもまた私が失ったものの象徴であり、その骨格・内臓・筋肉・皮膚と制作し、制作した肺に空気を、心臓に血液を送り蘇生を目指す。」

※本フェアでは、作家の亡くなった愛犬の遺骨を作品として蘇生させるシリーズ「変身物語 METAMORPHOSES」を発表。



展示風景
「石負の鳥と我が彫刻」
バラオの石灰岩、ストーリーボード、ビルマネム、キューバンマホガニー、映像、ほか
2020年

石黒 健一 Kenichi Ishiguro

作家の言葉：

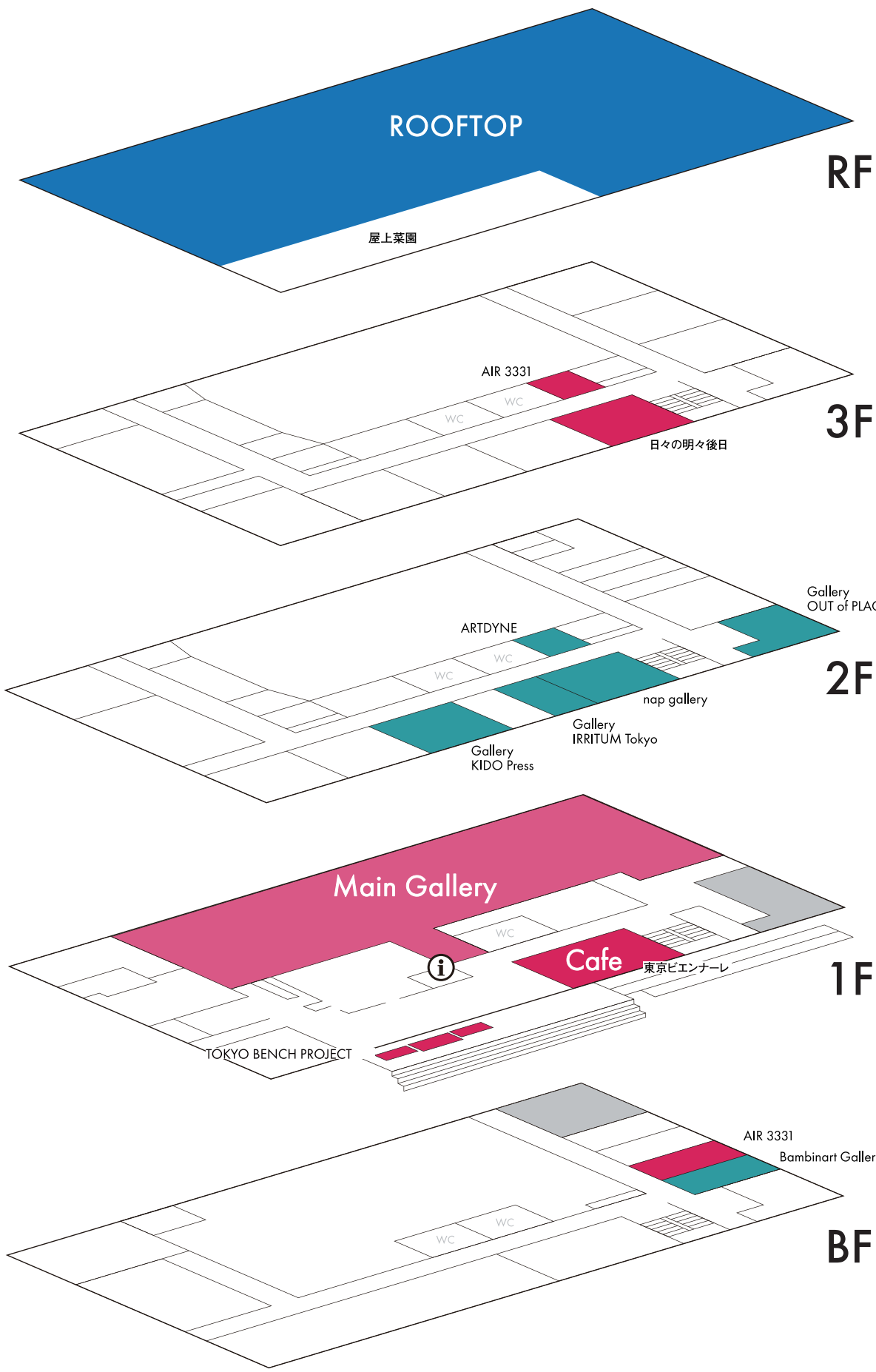
「主に鉱物などの時代や地域を象徴する物質を扱い、彫刻の可能性を追求している。ものに付随する「価値」の不確定さを主題としながら、それらを異なる文化や歴史を接続することにより、さまざまな関係性を導き出す試みを行っている。近年は彫刻と映像などのさまざまなメディアを組み合わせた作品を展開している。」

※本フェアでは「石自体は動かない代わりに所有者が移り変わっていくヤップ島の石貨文化と、人から人へ売買されていく芸術作品のシステムを、わらしべ長者のような語り口と共に提示」したインスタレーション作品を発表。（一部、推薦者の解説文より抜粋）

館内見取り図

3







1F-Main Gallery/
Lounge

4

出品作家

全国美術館の学芸員や、キュレーター・美術関係者が推薦する気鋭のアーティストの作品が並ぶ展覧会形式のアートフェア会場です。オルタナティブな活動を行う作家から商業ギャラリーで活躍する作家まで、様々なスタイルで制作・発表を続ける気鋭のアーティスト67名が集結しました。

※2F体育館で予定していた「Selection-GYM」の展示が、開催規模の縮小により、1Fメインギャラリーに会場を移して実施されました。

[推薦作家]

明石 雄

Yu Akashi

池田 嘉人

Yoshito Ikeda

石黒 健一

Kenichi Ishiguro

石場 文子

Ayako Ishiba

犬和紙

Inuwashi

宇平 剛史

Goshi Uhira

江上 越

Etsu Egami

岡川 恒輝

Koki Okagawa

小川 武

Takeshi Ogawa

小田 香

Kaori Oda

上村 菜々子

Nanako Kamimura

貴志 真生也

Maoya Kishi

古賀 学

Manabu Koga

後藤 有美

Yumi Goto

小林 椋

Muku Kobayashi

小林 勇輝

Yuki Kobayashi

杉本 克哉

Katsuya Sugimoto

須永 有

Aru Sunaga

副島 しのぶ

Shinobu Soejima

高橋 大輔

Daisuke Takahashi

田中 秀和

Hidekazu Tanaka

飛田 正浩

Masahiro Tobita

富安 由真

Yuma Tomiyasu

永井 天陽

Solaya Nagai

NARAMIX

× Ukulelist DAICHI

NARAMIX × Ukulelist DAICHI

平野 真美

Mami Hirano

藤田 紗衣

Sae Fujita

冬耳

Fuyuji

堀 聖史

Satoshi Hori

堀内 悠希

Yuuki Horiuchi

堀川 すなお

Sunao Horikawa

前田 エマ

Emma Maeda

南 靖子

Yasuko Minami

百瀬 文

Aya Momose

ユアサ エボシ

Ebosi Yuasa

弓指 寛治

Kanji Yumisashi

横野 明日香

Asuka Yokono

吉村 宗浩

Munehiro Yoshimura

和島 ひかり

Hikari Wajima

渡邊 洵

Makoto Watanabe

BCL / Georg Tremmel

BCL / Georg Tremmel

Fernanda Feher

Fernanda Feher

黄海欣

Hai-Hsin Huang

Hui Serene Sze Lok

Hui Serene Sze Lok

Mirim Chu

Mirim Chu

Natasha Frisch

Natasha Frisch

[3331 Select]

岩崎 貴宏

Takahiro Iwasaki

O JUN

O JUN

小林 正人

Masato Kobayashi

鈴木 理策

Risaku Suzuki

スプツニ子！ ×

西澤 知美

Sputniko! × Tomomi Nishizawa

やなぎみわ

Miwa Yanagi

[Lounge]

端 聡

Satoshi Hata

石原 英介

Eisuke Ishihara

大谷 太郎

Taro Otani

上野 裕二郎

Yujiro Ueno

小倉 真

Shin Ogura

開藤 菜々子

Nanako Kaito

銀ソーダ

Ginsoda

こひら たくみ

Takumi Kohira

コムロ ヨウスケ

Yosuke Komuro

濱村 裕二

Yuuji Hamamura

林 不一

Fuitsu Hayashi

藤村 幹

Miki Fujimura

毛利 亜紀

Aki Mori

やなぎさわ ひろ

Hiro Yanagisawa

山本 育子

Ikuko Yamamoto

作家推薦者・総評



荒木 夏実

Natsumi Araki

キュレーター／東京藝術大学准教授

【推薦作家】

小林 勇輝、副島 しのぶ、和島 ひかり

今回推薦した小林勇輝、副島しのぶ、和島ひかりの3人は、それぞれ全く異なる作風でありながら、身体性について個々に追求している点が興味深い。

小林は人種や国や性別によるステレオタイプからの逃避を求めて、自身の身体をあらわにする。生々しさとユーモアを備えた表現にはイギリス仕込みの「毒」が感じられるが、見慣れると爽快感が生まれてくるから不思議だ。

副島は架空の世界の中に「リアリティ」を見事に浮かび上がらせる。物語の下地となるリサーチの丹念さ、造形物を肉づける際の創意工夫がなせる技だろう。

和島は自分自身に向き合い、肉体と精神へのユニークな分析を行う。繊細でありながら冷静に世界を見つめる視線が、大胆な表現力へとつながっている。

「あたりまえ」を疑うことがアートだとしたら、彼らはヴァーチャルな空想世界ではなく、厄介な「身体」に向き合い、忘れていたり見えていないものに気づかせてくれる。ときにしつこく、ときにさりげなく。



飯田 志保子

Shihoko Iida

キュレーター

【推薦作家】

石場 文子

写真や映像を含む現代の視覚芸術全般に関心を寄せる私にとって、石場さんの写真作品は非常に新鮮に映りました。アーティスト自身の手によって被写体に物質的に介入する手法は、美術史においてはコンストラクテッド・フォトの系譜に連ねることができそうですが、それとも異なる軽妙でコンセプチュアルなアプローチに、今後さらなる発展の可能性を感じました。

また、石場さんは愛知県芸を修了し愛知県を拠点に活動する若手作家で、あいちトリエンナーレ 2019の参加アーティストでもあります。地域の若手作家やトリエンナーレの参加アーティストに対して、より多様な活動の機会を提供することは、名古屋を拠点に活動するキュレーターが可能な継続的な支援のひとつです。以上の理由から石場文子さんを選定いたしました。



井波 吉太郎

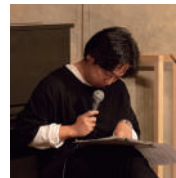
Yoshitaro Inami

東京都現代美術館 学芸員

【推薦作家】

上村 菜々子、ユアサ エボシ、吉村 宗浩

今回私が推薦した作家は、いずれも平面作品の作家である。その中でも具象的なモチーフを描く画家を選び、さらには三者三様な世界観が際立つように意識しながらセレクトした。加えて、もしもタイトルをつけて括るとすれば「Unforgettable」。作品に向き合ったとき、忘れられないくらいのインパクトを与えてくる作家は数多くいるが、時間が経って私の脳の中で抽象化し、断片化したときに、いい意味で「トラウマ」のような、ゾワゾワとした触感を持つ作家を選んだつもりである。些か感覚的な選出ではあるが、いつも頭の片隅にあるゾワゾワを今回はこのような形で選出し、たくさんの人にご紹介することで、今度は相対化されるフェーズへ行くに違いないと願っています。



大下 裕司

Yuji Oshita

大阪中之島美術館準備室 学芸員

【推薦作家】

犬和紙、貴志 真生也、永井 天陽、百瀬 文

どの作家についても、どのように「見る・見える・見られる」とかという、視覚的な側面をきっかけとしてお声がけをさせていただいた。また、自分自身の視覚や認識について、これまで述べられてきたような哲学的な観念や芸術理論と、どういった距離を保ちながら作品制作をしているかを着眼点としている。一方で、犬和紙は日本画でオオカミという具象を描き、百瀬文はパフォーマンスと映像で身体から社会へアプローチし、貴志真生也は構造的なモチーフで空間に言及し、永井天陽は視覚による実体のブレをテーマにするなど、作品形態や手法は全く異なっている。しっかりと見る、という展示観賞にとって当たり前重要であり、かつ一番おそろかにされてしまうことに対して、各作家とも、そのようにはさせない惹きつける要素を多分に持っていると言える。



楠見 清

Kiyoshi Kusumi

美術編集者／評論家、首都大学東京准教授

【推薦作家】

古賀 学、宇平 剛史、小川 武

壁を飾る平面作品の中からとくにその平面性を問う作家たちを選んだ。しかも、いわゆる絵画ではなくいずれも写真と版画なのは、それらがプリント技術に支えられたイメージの表層にすぎないという事実に対してとくに自覚的なメディアだからだ。イメージとはただ網膜に映り脳裏に焼付くだけの実体のない幻影にすぎない。マルセル・デュシャンはそういったイメージを極薄の皮膜を意味する造語「アンフランクス」と呼んだが、その薄っぺらな表層は情報メディア時代のいまデジタルデータとなって私たちのいる現実空間と誰もいない情報空間の境界を透過しすばやく通行可能なものになっている。そもそも古代の芸術がこの世とあの世をつなぐメディア(霊媒)だったことを考えれば、現代のメディアなりアートなりは総じてそこに帰したのだともいえる。

コノヨモノとアノヨモノ。生と死。三次元と二次元。物質と非物質。フィジカルとデジタル。向こうとこちらをつなぐ窓として、これらの作品はあなたの部屋に新たな意識の見晴らしと風通しをもたらすだろう。



小金沢 智

Satoshi Koganezawa

太田市美術館・図書館 学芸員

【推薦作家】

後藤 有美、須永 有、高橋 大輔

これだけ表現が多様化してなお、私はずっと、「絵」が気になっています。それは素材・技法やメディアの差異によってさまざまな呼称があります。たとえば、「日本画」(膠彩画)、「洋画」(油彩画)、「水彩画」、「ドローイング」と言ったら前者、「漫画」「イラストレーション」「壁画」と言ったら後者が主だった原因の呼称でしょう(とりあえず、便宜的には)。そして私は、絵という言葉に、それらの総称であると同時に、そのように素材・技法やメディアによって絵が分化されていく前の原点のようなイメージを持っています。幼児が描いたものも、現代美術家が描いたものも、同じ「絵」です。ですから、私は、市場や美術史的価値、ニーズとは別の視点から、それらをできるだけ同じものとして見てみたい、という欲望があります。今回私が推薦した3人は、そのような多岐にわたる「絵」に対して新鮮でユニークなアプローチを見せてくれる作家です。ぜひ楽しんでください。



高橋 瑞木

Takahashi Mizuki

CHAT 共同ディレクター

【推薦作家】

田中 秀和、堀川 すなお

堀川さん、田中さんの両者に共通するのは、それぞれユニークな絵画の制作の方法論を確立していながら、ワークショップの参加者や他ジャンルのアーティストと関わりながら作品を発展させているところです。私がかつて企画した水戸芸術館で堀川さんの小さな展示は、彼女がその独特の方法論を確立する過程を紹介するものでした。ひとつの方法論にたどり着くまで、一人でこつこつと実験的な制作を続ける探究心を空間に再現するような展示になりました。その後、ニューヨークでのレジデンスを経て、人種や国籍、年齢の異なる人々を巻き込みながら彼女の方法論、そして作品はますます広がりを持つようになりました。

田中さんもミュージシャンと一緒にライブペインティングをおこなったり、ファッションデザイナーとコラボレーションした洋服を発表しています。ポップカルチャーのクリエイターと協働することで、抽象絵画が閉じた絵画のジャンルではなく、音楽や身体とも親和性が高いという、当然なのに見過ごされがちな事実をアップデートしながら実践している作家です。

トレンドに消費されることなく、独自の方法論を確立している作家は、活動の息が長く、作品はゆっくりと成熟していきます。現代アートの醍醐味のひとつは、作家の成長と作品の成熟の過程を同時期に体験できることです。この二人の作家はこの喜びを私に感じさせてくれます。



中村 史子

Fumiko Nakamura

愛知県美術館 学芸員

【推薦作家】

石黒 健一、小林 椋、横野 明日香

作家に参加をお願いするにあたり、次の条件を自分で設けてみました。一つ目は、私が現在、拠点としている東海・関西で主に活動している作家であること。二つ目は、絵画、彫刻、インスタレーション、映像、プロジェクトベースというように、三作家であっても、できる限り多くの表現領域や技法をカバーすること。そして三つ目は、作品があっけらかんとした単純さと複雑さの両方を併せ持っていることです。シンプルな形態ながら幾重もの情報が織り込まれた三名の作品は、作り手と売り手、買い手、そして多くの観客が作り出す特殊な生態系の中で、ひょうひょうとした魅力を放つのではないかと想像しています。



宮本 武典

Takenori Miyamoto

キュレーター／クリエイティブディレクター

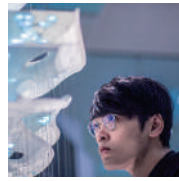
【推薦作家】

小田 香、飛田 正浩、前田 エマ

私にはいくつもの顔がある。キュレーターであり、父であり、夫であり、未だ息子であり、またそのどれもに帰属しない旅人である。今回はアートフェアなので、そんな「いくつもの私」のこんがらかった毎日で、ともに暮らしたいアートをセレクトしてみた。すると専門家としての審美眼の狭間に、思春期にさしかかった二人の娘を持つ父親としての顔が見え隠れしたりするから面白い。

飛田正浩と前田エマがフィールドにするファッションは、言うまでもなく生活のなかにあるアートワールドである。ファッションは街の「いま」を敏感に反映するし、時には大きな影響を与えたりする。小田香が個人的に描きためていた作品を紹介したいと思ったのは、マネタイズが難しいドキュメンタリーフィルム製作において、絵画の制作・収入が監督のサポートにつながると考えたからである（クリスト&ジャンヌ＝クロードのドローイングのように）。

人生をともに歩む家族や友のため、そして私自身の精神の安寧のためにアートを購入し飾るパーソナルなキュレーションもまた、このアートフェアでみなさんに推奨したいところである。何がアートかを決めるのはトレンドでもマーケットでもなく、私たちの日々である。



高橋 洋介

Yosuke Takahashi

金沢21世紀美術館 キュレーター

【推薦作家】

平野 真美、BCL / Georg Tremmel

これは、現代アートを所有したい人に対する、ささやかな挑戦です。絵画や彫刻のようにわかりやすく「芸術」然と佇むものや、既に価値が定まっているものが好きなコレクターにはお薦めできません。そうではなく、常に「芸術とは何か」を問い続け、自分たちの時代にしかない文化を同時代の作家たちとともに創造したいと願う人のために、私はBCLと平野真美という2作家を推薦します。

両作家はこの時代に特有の素材と形式で、いまを生きていることの意味や現代社会の問題について美しく問いかけます。ですが、作品の一部が生きていたり、代謝し続けたりする(形が更新され続けるため完成がない)ため、安易な理解や所有を拒むでしょう。あなたが、おしゃれなインテリアや自己顕示のためのファッション、投資の道具を求める人ではなく、真に芸術を愛し、作品の背後にある真価を理解し、心から作家と世界観を共有したいと願う人であるならば、ぜひご検討ください。



畑井 恵

Hatai Megumi

千葉県美術館 学芸員

【推薦作家】

江上 越、NARAMIX×Ukulelist DAICHI

この度ご紹介する江上越、NARAMIX×Ukulelist DAICHI はいずれも、千葉出身かつ千葉を拠点に活動している作家たちです。印象的なストロークの重なりで、コミュニケーションの軌跡を描き出そうとする江上の絵画には、イメージを超えた息遣いが感じられます。日々の活動を通して出会った素材を発展させ、即興的なパフォーマンスを行うNARAMIX×Ukulelist DAICHIは、空間の特性やその場に居合わせた人々をゆるやかに取り込みつつ、揺れ動く状況を表出させようと試みます。

制作手法、ジャンルや肩書きは様々ですが、彼女らの表現に共通して見られるのは、他者の存在にいかに向き合うかという姿勢です。それは、対象との距離を縮め、垣根を越えようとするダイナミックな動きではありません。むしろ、様々な境界線、他者との隔たりを訝らかにしながら、既にそこに存在している美しさに手を添える、あるいは氣の流れを捉え合わせる「合気」のような手つきによって、見る人の心を動かします。

推薦団体一覧

アキバタマビ21
Gallery OUT of PLACE
ex-chamber museum
Nii Fine Arts Tokyo
Bambinart Gallery

アーツ千代田 3331



ROOFTOP

5

3331 ART FAIRの見所のひとつである屋上の展示は、元校庭という開放感溢れる屋外空間を活かした大型のインスタレーションやコンセプチュアルな作品が例年来場者の目を楽しませています。本年同エリアのキュレーションを担当したのは、次世代を担う若手キュレーターの一人・青木彬氏。「The Struggle for Tomorrow」と題した展示では、6名の若手作家たちが3331の屋上にひとつの村のような空間を創り上げました。また、3331 ART FAIR 2020のコミュニケーションパートナーであるThe Chain Museum様の全面協力の下、同社が開発したArtStickerを通じて来場者が展覧会にStickerを入れる（ドネーションをする）ことで、会場に居るアーティストが行う様々なアクティビティを受け取るというインタラクティブな取り組みを導入しました。

※同展示会場は有料エリアから無料エリアに変更となりました。

作家推薦者



青木 彬
Akira Aoki

インディペンデント・キュレーター

「The Struggle for Tomorrow」

今、創造の喜びや苦渋、そして名指すこともできない感情を通して、抗わなければならないものがある。それは声を上げることで。些細な工作を通じて。境界を越えることで。素材を変容させることで。自らの選択によってあらゆる状況を変化させることが求められている。アートフェアという場で行われる「購入」は決して「所有」に還元されるものではなく、「未来へ向けた振る舞いへの加担」とも言えるだろう。「The Struggle for Tomorrow」は明日を共につくるための場所である。



ArtSticker × 3331 ART FAIR 2020

「The Struggle for Tomorrow」は、アートフェアという場において、作品の購入だけでなく、来場者がアーティストの振る舞いへ加担する仕組みが考えられないかと着想された展覧会です。

ArtStickerを通じて展覧会を支援することで、会場にいるアーティストが行うアクティビティに参加できるだけでなく、今後の活動に向けたプロポーザルやメッセージを束ねた『レター』を受け取ることができます。

会場では中島晴矢が自身が運営に携わる「喫茶野ざらし」を出店。通常は一定の価格で提供されるハンドドリップコーヒーが、Stickerの投げ銭によって来場者一人一人の間に成立するパフォーマンス作品となるのです。

これまで参加者とのコミュニケーションを通して作品を展開してきた今井さつきは、“創作と祈り”について考えながら、屋上でマスクをつくります。接触することが困難なこの状況の中で、これまで出会った大切な人を思い浮かべながら、祈りの意味を込めて来場者とともにマスクを縫います。

その他、アーティストやキュレーターとの交流によって様々なアクティビティが生まれていくでしょう。

アートフェアという場で行われる「購入」は決して「所有」に還元されるものではなく、「未来へ向けた振る舞いへの加担」でもあります。あなたのStickerで、彼らの活動が大きく展開していくのです。



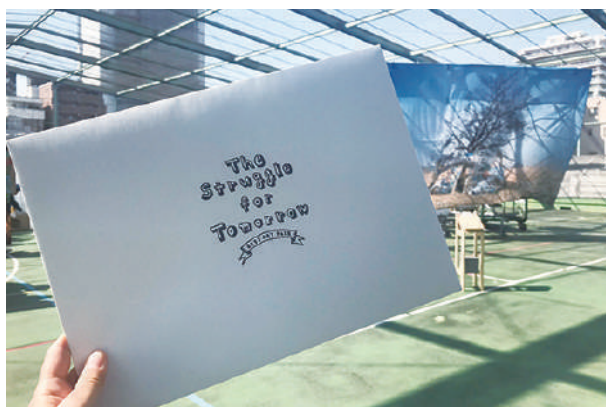
今井 さつき
Satsuki Imai



遠藤 薫
Kaori Endo



齋藤 恵汰
Keita Saito



佐藤 研吾
Kengo Sato



中島 晴矢
Haruya Nakajima



光岡 光一
Koichi Mitsuoka





6

Galleries-B1F/2F

館内の廊下沿いに立ち並ぶ入居ギャラリーが、“Galleries-B1F/2F”として3331 ART FAIR 2020に参加。
各ギャラリーごとに、オリジナリティに溢れた力のある展覧会を開催し、この度のフェアを共に作って頂きました。



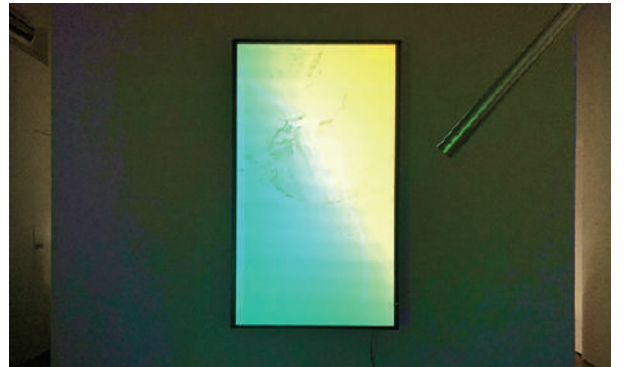
Gallery KIDO Press
束芋「Ghost Running」



Gallery IRRITUM Tokyo
Lawrence Beck「Hanami」



nap gallery
白井 美穂 / 村田 峰紀 / タムラ サトル / 東松 照明 / 荒木 経惟
「春の雷」



Gallery OUT of PLACE
Houxo Que「Proxy」



ARTDYNE
尾黒 久美 / 成田 輝 / 高木 優希 / 加藤 亮太郎 / リリー・シュウ
「Spring Show」



Bambinart Gallery
南谷 理加「WONDERLAND」

7

Art Projects



絵画・彫刻・写真・映像・パフォーマンスなど、作品として発表されたり目に見えるものだけがアートではありません。
3331 ART FAIR では「行為」や「アートプロジェクト」という表現を通じて社会と繋がる芸術文化活動についても、
紹介する取り組みを続けています。



TOKYO BENCH PROJECT
(田中元子+大西正紀)

「まちの1階に人が居る日常をつくる」をテーマに活動をするグランドレベル(田中元子+大西正紀)が展開するTOKYO BENCH PROJECTは、東京の街中に人・まち・アートを繋ぐベンチを設置し、東京の風景を変えるアートプロジェクトです。3331 ART FAIR 2020では、会場となるアーツ千代田3331のウッドデッキや各フロア、屋上など館内各所にベンチを設置することで、3331の風景を変え、来場者の方々に暫しの休息の場所を提供して下されました。

AIR 3331

AIR 3331は、アーツ千代田 3331が運営するアーティストインレジデンス(Artist In Residence=AIR)のプログラムです。国内外から様々なアーティストの滞在・制作を受け入れる「AIR 3331 オープンコール」と、3331がアーティストを招聘する「AIR 3331 招聘プログラム」があり、映像、デザイン、演劇、音楽、建築など多岐に渡る分野で活動するアーティストが国内外より参加してきました。
東京の中心で滞在・制作・発表ができることもAIR 3331の特徴のひとつ。アーツ千代田 3331と岩本町スタジオ(千代田区岩本町3-4-8)を中心に、秋葉原、御茶ノ水、馬喰町、上野など江戸の歴史や情緒と国際都市“東京”の姿が交差する街を舞台に、AIR 3331はこれからもあらゆる表現に挑戦し、アーティストの活動をサポートしています。



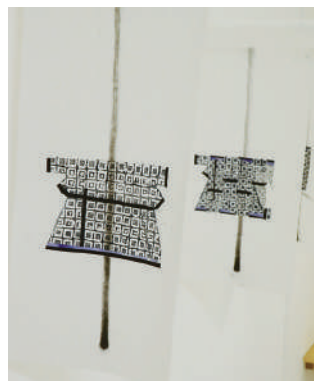
日常の明々後日

「日常の明々後日」は、アーティスト日比野克彦が現在各地で行っているアートプロジェクトをアーカイブし、検証・発信していく時間を意味し、また同時にその拠点となるスペースです。東京藝術大学の日比野研究室の学生にとどまらず、多くの若手作家が自身の表現をここから発信しています。通常は非公開のスペースを3331 ART FAIR 2020に合わせて来場者の方に特別に公開し、アートプロジェクトが生み出される現場を体感していただきました。



東京ビエンナーレ2020

東京ビエンナーレとは、“東京”のまちを舞台に“2年に1度”開催する国際芸術祭です。
国内外の幅広いジャンルの作家やクリエイターが東京のまちに深く入り込み、まちの歴史文化から新たな可能性を引き出し、地域に創造的な文化を広げていきます。3331 ART FAIR 2020では、東京ビエンナーレ2020の紹介とともに、参加作家のなかから椿昇、藤浩志、村山修二郎、津村耕佑、池田晶紀、山崎亮、Hogalee、鈴木真悟らが参加。1Fコミュニティスペースに面した『3331 CUBE shop&gallery』と『COPAINS de 3331』で展示を展開していただきました。

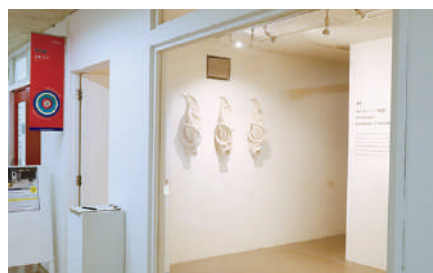


① 313号室

タイトル:「AIR 3331プロジェクトスペース」

展示作家:オーレリー・クリセティグ(スイス) & ポーラ・メンチェン(スペイン)

展示概要:AIR 3331プロジェクトスペース(313)では、AIR 3331のもう一つの制作場所である岩本町スタジオを拠点に活動を行う2人のアーティストの展示を開催しました。オーレリー・クリセティグ(スイス/マルチメディア)、ポーラ・メンチェン(スペイン/ビジュアルアート)の2人は、東京の地元の地域と関わりながらそれぞれが持つ背景や創作スタイルを通して作品の表現に繋げてきました。様々な国籍や文化を持つアーティスト達が、3331とともに東京の中心で得たものの一端を感じさせる展覧会を開催しました。



② B108号室

タイトル:「春歩く / SPRING WALK」

展示作家:チェンチン・リユー(台湾)

作家の言葉:「銀座の街中や日本庭園を歩いていると、ケープ付きの着物を着ている女性たちを見かけました。私はその動作、仕草やシルエットに感動しました。今回制作するソフトスカルプチャーでは主要要素として、着物とそのシルエットを取り入れました。」



8

Satellite Venue
(NOHGA HOTEL UENO)

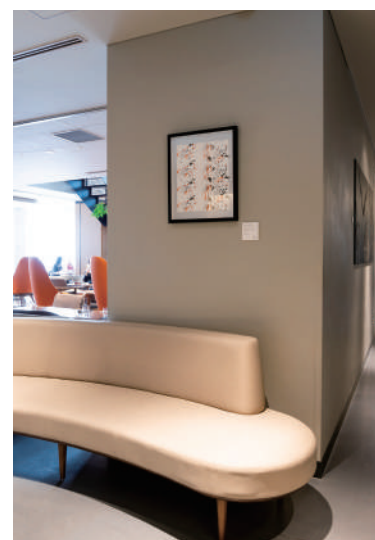
パートナーホテルのNOHGA HOTEL UENOでは、3331 ART FAIR 2020のサテライト会場として空間に合わせて制作された村山悟郎による新作の展示が行われました。(展示期間：2020年7月初旬までを予定)



学習的ドリフト・ドローイング (弁柄、シルバー) 水彩紙、アクリリック、30cm × 360cm, 2020年



学習的ドリフト・ドローイング (シルバー)
水彩紙、アクリリック、42cm × 480cm, 2020年



学習的ドリフト・ドローイング (弁柄、シルバー)
水彩紙、アクリリック、額、42cm × 35cm, 2020年

【作家】

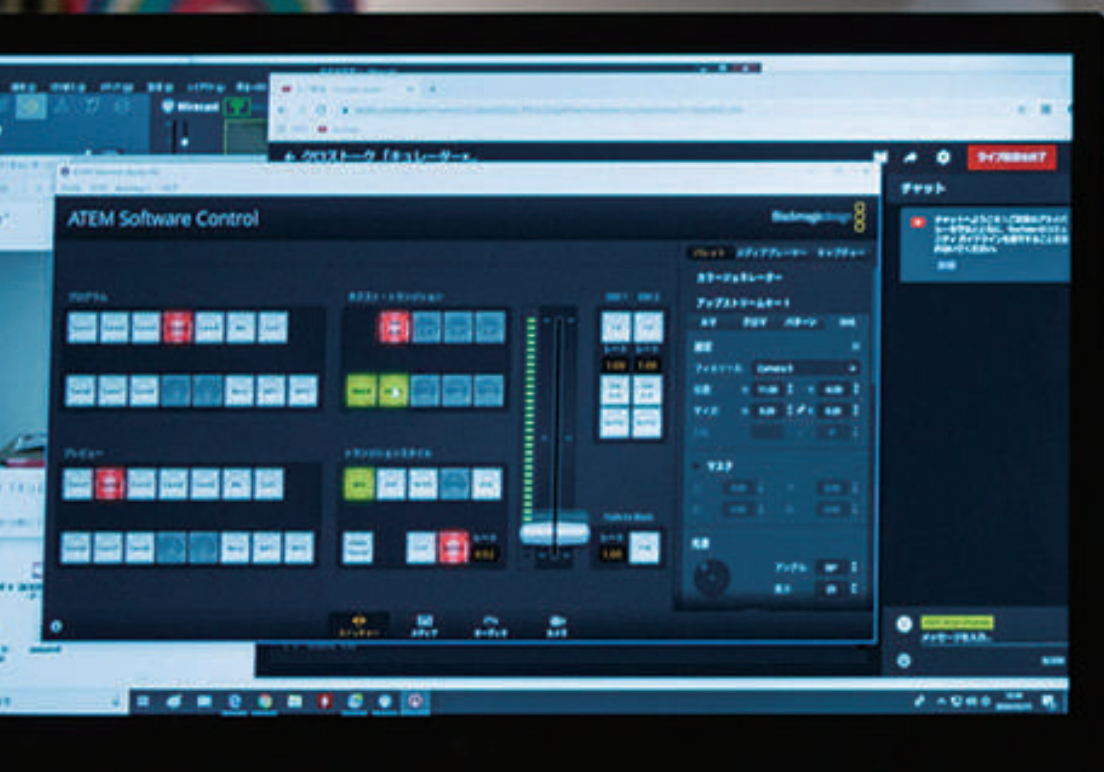
村山 悟郎

Goro Murayama

村山悟郎は、自己組織化するプロセスやパターンを、絵画やドローイングをとおして表現しています。自己組織化とは、自律的に秩序を持つ構造を作り出す現象のことです。80年代以降、科学理論として展開されました。雪の結晶や交通渋滞あるいはアリの巣、そして細胞膜の形成運動までも、この実例と考えられます。生命や社会といった有機的な構造に広範に見られる現象です。予め全体の設計図が外から与えられるような組織ではなく、部分的な要素の相互作用で構造が内発的に創発(emergence)するシステムをあつかっています。村山はこの理論を参照しながら、絵画やドローイングの新しい形を提示しています。一般的な絵画の画面構成は、下絵を作成し、それに基づいて実践されます。村山の場合それと異なり、制作プロセスに独自の方法を設定しています。画面における先の様相が、次の一手の開始条件となるような自己組織的なルールを導入することで、周期的なパターンにおさまらない、有機的で生命的なパターンを生み出すことが出来るのです。

9

関連イベント



新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により、ツアーやパフォーマンス、マーケットが中止・延期になる中、予定していたトークイベントの一部を無観客によるライブ配信に切り替えて開催しました。「アーティストの声」を届ける場をオンラインで設けることで、ご来場いただけなかった方にも作品の魅力やアートフェアの雰囲気をお届けすることができました。

① パフォーマンス

3331 ART FAIR 2020出品アーティストの1人 上村菜々子氏は、エンコスティックエッチングという技法を用い、タップダンサーとコラボレーションしてタップの軌跡を描く「tap×drawing」シリーズを制作。自身もダンサーでもある上村氏は、様々な表現者とのコラボドローイングを行う他、アートイベントの企画・運営を行うなど、幅広い活動を展開しています。

3331 ART FAIR 2020の初日に合わせて、タップダンサー米澤一平氏、振付家／映像作家J氏とのコラボドローイング「タップが描くー tap × drawing / 米澤一平 × 上村菜々子 × J」を実施。コミュニティスペースを舞台に、時間、音、軌跡が重なり合うパフォーマンスが繰り広げられました。



パフォーマンス by 上村菜々子
「タップが描くー tap × drawing / 米澤一平 × 上村菜々子 × J」

タイトル	パフォーマンス by 上村菜々子 「タップが描くー tap × drawing / 米澤一平 × 上村菜々子 × J」
実施形態	当初は2階体育館での実施を予定していたが、換気が良く、密集空間になりにくいコミュニティスペースに会場を変更して実施
日時	3月18日(水) 14:30 - 15:30
場所	1階コミュニティスペース (当初は2階体育館を予定)
料金	無料
出演者	上村菜々子 (アーティスト / ダンサー)、 米澤一平 (タップダンサー)、J (振付家 / 映像作家)

② クロストーク「キュレーター ×アーティスト」シリーズ

3331 ART FAIR 2020では、学芸員やキュレーター、美術関係者などが出品アーティストを各地より推薦・選出しました。推薦者と推薦アーティストによるクロストークシリーズでは、推薦者からの視点を交えながら、作家の考えや作品・活動の背景についてお話を伺いました。無観客・ライブ配信という形式での開催になりましたが、作家自身の言葉で語られる制作の意図や背景を通して、作品に対する理解を深める貴重な機会をご来場頂けなかった方にもお届けしました。

※「Vol.2 小金沢智 × 後藤有美 & 須永有」並びに「Vol.4井波吉太郎 × 上川菜々子 & ユアサエボシ & 吉村宗浩」は中止となりました。



タイトル クロストーク「キュレーター ×アーティスト Vol.1」
荒木夏実 × 小林勇輝 & 副島しのぶ & 和島ひかり

実施形態 無観客・ライブ配信に変更（副島氏は Skype にて参加）

日時 3月19日(木) 16:00 - 17:00

場所 B104 配信スタジオ

料金 無料

出演者 荒木夏実（キュレーター／東京藝術大学准教授）、
小林勇輝・副島しのぶ・和島ひかり（アーティスト）

<https://www.youtube.com/watch?v=G81AmuQjhzs>
*アーツ千代田 3331 YouTubeチャンネルで公開中



タイトル クロストーク「キュレーター ×アーティスト Vol.3」
青木彬 × 中島晴矢 & 光岡幸一

実施形態 無観客・ライブ配信に変更

日時 3月21日(土) 13:30 - 14:30

場所 B104 配信スタジオ

料金 無料

出演者 青木彬（インディペンデント・キュレーター）、
中島晴矢・光岡幸一（アーティスト）

URL <https://www.youtube.com/watch?v=lxpyHbXu3kw>
*アーツ千代田 3331 YouTubeチャンネルで公開中



タイトル クロストーク「キュレーター ×アーティスト Vol.5」
宮本武典 × 小田香 & 飛田正浩 & 前田エマ

実施形態 無観客・ライブ配信に変更（小田氏、前田氏は欠席）

日時 3月22日(日) 16:00 - 17:00

場所 B104 配信スタジオ

料金 無料

出演者 宮本武典（キュレーター）、飛田正浩

URL <https://www.youtube.com/watch?v=G81AmuQjhzs>
*アーツ千代田 3331 YouTubeチャンネルで公開中

③ 支援・評価・アーカイブ・共有するアート | 新時代のプラットフォーム構築

テクノロジーやウェブを活用する現代、アートの支援、評価、アーカイブはどのように変わっていくのか。

アートと個人の間をテクノロジーで変革させるプロジェクト「The Chain Museum」やアーティスト支援アプリ「ArtSticker」を2019年にスタートするなど、新しいアート支援や関わり方をつくり出す遠山正道氏（株式会社スマイルズ 代表取締役社長）と、ブロックチェーンを活用したアートの流通・評価のインフラを構築するスタートバーン株式会社 代表取締役の施井泰平氏をお招きし、ウェブ版「美術手帖」の編集長を務める橋爪勇介氏によるモデレーションのもと、両氏のお話を掘り下げながら、これからの時代のアートプラットフォームについて考えました。



タイトル 支援・評価・アーカイブ・共有するアート | 新時代のプラットフォーム構築

実施形態 無観客・ライブ配信に変更

日時 3月20日(金・祝) 13:00 - 14:30

場所 B104 配信スタジオ

料金 無料（当初予定は500円）

出演者 遠山正道（株式会社スマイルズ 代表取締役社長、The Chain Museum 代表取締役社長）
施井泰平（スタートバーン株式会社 代表取締役）
モデレーター：橋爪勇介（ウェブ版「美術手帖」編集長）

URL <https://www.youtube.com/watch?v=EZ5xZKUUY08>
*アーツ千代田 3331 YouTube チャンネルで公開中

④ #ハフポストLIVE x 3331 ART FAIR 2020 スペシャルトーク 「現代アートで問いかける、女子受験生が減点される社会」

ハフポスト日本版の編集長・竹下隆一郎氏が聞き手となり、3331 ART FAIR 2020 出品作品である「東京減点女子医大」について、アーティストのスツニ子！氏にプロジェクトの背景や内容について詳しく語って頂きました。ジェンダー、ダイバーシティ&インクルージョン、SDGs、セクハラ・パワハラ問題…さまざまな課題を抱える現代の日本社会においてアートが担う役割や、「アートでこそ伝えられることは何か」「わたし」とアートと社会の関係性」について視聴者からの質問にもリアルタイムで答えながら一緒に考えました。



タイトル	#ハフポストLIVE x 3331 ART FAIR 2020 スペシャルトーク 「現代アートで問いかける、女子受験生が減点される社会」
実施形態	無観客・ライブ配信（#ハフポストLIVEで配信）
日時	3月21日（土）18:00 - 19:00
場所	B104 配信スタジオ
料金	無料（当初予定は500円）
出演者	スツニ子！（アーティスト）、竹下隆一郎（ハフポスト日本版 編集長）

【同時期開催】アーツ千代田 3331特別企画展

「アーリー 90's トーキョー
アートスクアッド」展

10



開催概要 (2020年6月末時点)

会期 2020年3月18日(水)～7月26日(日)

* コロナウィルス感染拡大の影響下での休場期間を鑑み、会期が延長となりました。
(当初の会期は4月29日(水・祝)まで)

時間 12:00 - 19:00

* 最終入場 18:30 * 今般の社会状況を鑑み、開場時間を変更させて頂きました。

会場

3331 Arts Chiyoda (〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14)

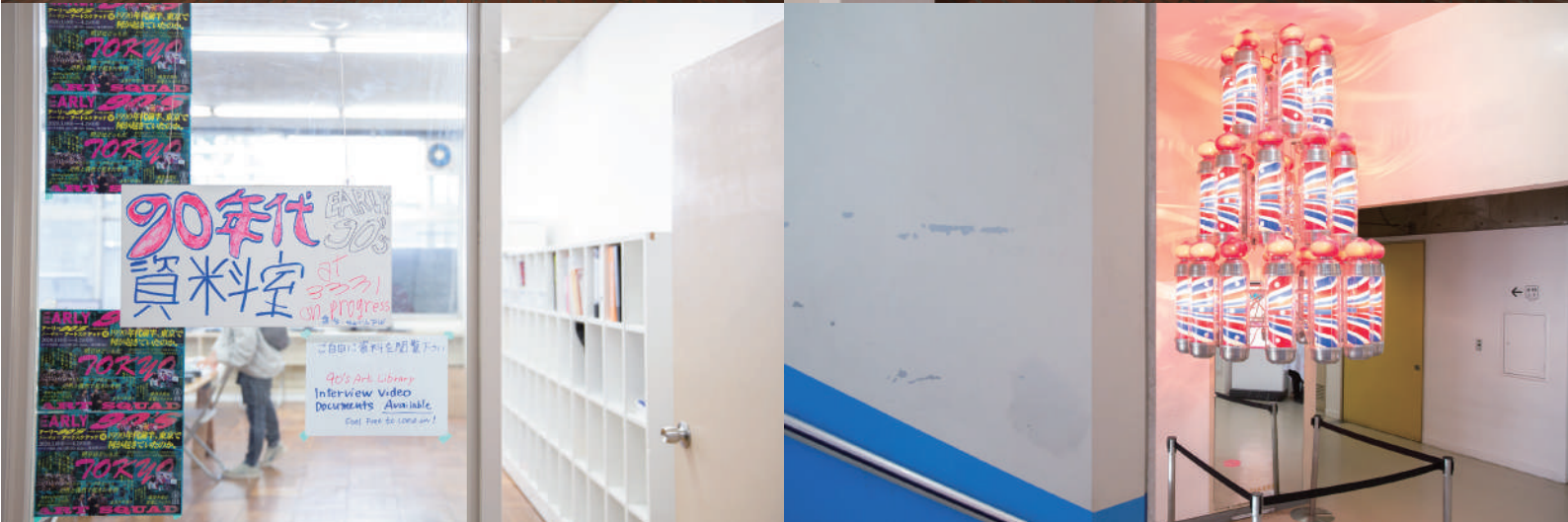
助成

令和元年度文化庁優れた現代美術の国際発信促進事業
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



主催 3331 Arts Chiyoda

料金 800円(税込) / 前売り券 500円(税込) ※ ArtSticker



展覧会に寄せて

この展覧会は、90年代前半に東京を中心に起きた動きにフォーカスし、そこでは何が起きていたのか、その一端を記録・紹介する目的である。

90年代前半、東京のアートシーンに躍り出てきた20代後半～30歳前後の若い作家たちは、先行世代のもの派・ポストもの派、関西の関西ニューウェーブ、あるいはやや遅れて現れる「スタジオ食堂」などには名前を持たず、未だに定義づけられていない。だが、今に至るまで制作活動を続けている者も多く、彼らのなかから国内外で活躍するアーティストも生まれた。

そこにあったものは何だったのか。

展覧会に先だって当時のアートシーンの参加者、目撃者、記録者を対象に行ったインタビューでは「何が起きていたのか」をリサーチし、資料を収集することに努めた。(インタビューの内容と資料の一部は、地下一階のB111室で公開しているので、ご覧になっていただきたい。また、展覧会ポスターに引用したフレーズは、調査での会話や資料からピックアップしている)

展覧会に出品した作品は、原則として1990-1995年の間に制作された作品とし(近年の再制作を含む)、主として作家自らが選んだ作品である。作品は3331ギャラリー内部のみならず、館内各所に作品を設置することとした。飯田啓子の宅急便伝票、竹内やすひろの住所看板と指紋や鈴木真悟のフラッシュカラーライト、ピーター・ペラーズの看板、ナカムラクニオの貼り紙、中村政人の床屋のボール、伊藤敦の歩数計は、当時、新宿歌舞伎町界隈、銀座や青山の街に無記名で、そして作品の意図についての確信をもって、だが美術館やギャラリーといった防護壁なしに、設置された作品である。当時の観客は予備知識もなく、街を歩いていてこれらの作品に遭遇した人々であった。

ギャラリーと周辺には、中ザワヒデキが1990年制作したCG第一作、八谷和彦がSMTVで制作した映像と視聴覚交換マシン、曽根裕の2つの映像作品と「彫刻」作品、村上隆の「中村と村上」展ソウル(本展で紹介する一連の動きの1つの起点になった展覧会)での作品、小沢剛の「なすび画廊」、宇治野宗輝の装飾オブジェと壁紙、松蔭浩之の写真、中村政人の2つの異なる鍵穴、オクダサトシのマスク、岩井成昭の養鶏所でのパフォーマンス、会田誠の銀座で行った「アートコジキ」、オスカー大岩の1995年のペインティング、MOJOWORKのパフォーマンス記録映像と写真を設置した。

ここに展示した作品や記録は、90年代前半に、東京で目まぐるしく起きていたできごとのほんの一端を示しているにすぎない。ギャラリー内に展示したファクス類や、B111に展示した資料類も、当時交わされた無数の通信のほんの一部にすぎない。

さて、そこで起きていたことは何だったのか。

すでに90年代の後半から、スウェーデン、ドイツ、ロサンゼルスなどで私はそう問われてきた。

確かにそこでは何かが起き始めていたし、起こしたという自覚もあった。何かが起きている熱を日々感じ、熱に浮かされてもいた。

だが、説明するどんな言葉も、そこで起きていたことから逸れていってしまうことに抱いたもどかしい思いは今も変わらない。今回のインタビューで見えてきたこともまた、それが何だったのか、当時を知る者の多くが(私を含めて)語る言葉をいまだに探しあぐねているという事実である。

本展タイトルでは、デジタルカメラもネットもなかったこの時代に手書き文字とファクスと手紙と直接対話でアートに向かい合い、自分たちの場所をつくりたいと行動を続けた作家たちにリスペクトをこめて「スクアッド」と名付けた。彼らをポートレートするこの試みはこの展覧会を超えて行う予定である。そして、彼らの発した熱量が次世代へと引き継がれていくこと、彼らの起こしたことのあれこれいつの日か超適切な言葉を持って語られることを願っている。

アーツ千代田 3331特別企画展
「アーリー 90's トーキョー アートスクアッド」展

キュレーター 西原 珉

関連イベント

タイトル	「昭和40年会 in 3331 令和バージョン」
実施形態	当初は B111 アーカイブルームにて観客を入れて実施予定だったが、無観客・ライブ配信に変更
日時	3月18日(水) 16:30 - 18:00
場所	B104 配信スタジオ(当初予定は B111)
料金	無料(当初予定は 1,000円)
出演者	会田誠、有馬純寿、小沢剛、曾根裕、パルコ木下、松蔭浩之(敬称略・50音順)
定員	なし(当初予定は定員40名。無観客・WEB配信に変更したため実質的な定員は無し)
URL	https://www.youtube.com/watch?v=bN8fc_RFljM *アーツ千代田 3331 YouTube チャンネルで公開中



タイトル	実演「視聴覚交換マシン」／八谷和彦
実施形態	3331 ART FAIR 2020の初日に合わせて、3月18日(水)に実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。その後4月25日(土)、29日(水・祝)に実施を検討するも、展覧会の休場に伴い延期となった。
日時	3月18日(水) 19:30 - ※中止 4月25日(土)、29日(水・祝)／各日2回 15:00 - 16:00、17:00 - 18:00 ※展覧会休場に伴い実施日未定のまま延期。
場所	1階 コミュニティスペース、ウッドデッキ ほか
金額	参加費：500円／組
定員	先着12組(2人1組)
参加方向	<ul style="list-style-type: none">・装着するゴーグルやヘッドホンは使用の度に、アルコールにて消毒する。・体験者には、住所と名前、連絡先を記載していただく。(万一の感染時のトレースのため)・体験者には、体験前に手指の消毒をしていただく。・体験者は原則マスクをしないが、したい場合はしても構わない。・アテンダントはマスクはしないが白手袋を装着している。・キスをするカップルは、事前に双方同意の上で行う。([流れてキス]は感染症リスクとセクハラ防止の観点から厳禁とする。) ※上記参加方法は、1993年レントゲン芸術研究所での最初の体験会での設定を元に、今般の感染症リスクを軽減する為に考慮された方法となります。
概要文	メディアアーティストの八谷和彦氏が1993年に開発・発表した《視聴覚交換マシン》の体験イベント。デビュー作であり、体験型作品の多い八谷氏にとって重要な作品のひとつ《視聴覚交換マシン》は、その作品名の通りお互いの見ているものや景色がリアルタイムで交換される装置です。頭部に取り付けた装置により半ば強制的に視覚と聴覚が制限されること=ある種の障がい(と感じるもの)が、実はコミュニケーションのきっかけとなるのではないかと。という作家の考えの元に企画されました。

パートナーシップ

11



パートナー一覧

各パートナー団体様には、会期前後に渡って、様々なご支援の形で3331 ART FAIR 2020に多大なるお力添えをいただきました。主催者一同、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

こちらでは、パートナー団体様との連携の一例をご紹介します。

<パートナー団体様 * 順不同>

後援



台北駐日経済文化代表処
台湾文化センター

協賛



協力



株式会社大同



美術Academy&School



大苑
藝術

FORMOSA ART FAIR



3331 Galleries

コミュニケーション
パートナー

The Chain Museum

メディアパートナー



美術の窓

art In ASIA

Art In Culture



美術手帖

パートナーホテル



パートナーイベント



ART in
PARK HOTEL
TOKYO
2020



パートナーシップ事例

ダイソン様

クリエイティブで常識を越えるプロダクトを発表し続けるダイソン様には、新型コロナウイルス感染防止対策の重要な役割を担う「換気・空気清浄」や「清掃」に関して、空気清浄機能付扇風機7台と、コードレス掃除機3台をお貸し出しいただきました。



ソフトバンクロボティクス様

ソフトバンクロボティクス様のご厚意により、毎年3331 ART FAIR にスタッフとして参加するロボットのPepper。2020年の開催では、新型コロナウイルス感染防止対策の一貫として、館内入口で、来場者の皆様にマスク着用やアルコール消毒の協力を呼びかける重要な役割を果たして頂きました。



COEDOBREWERY様、ジャパンビバレッジ様、OSAJI様

COEDOBREWERY様、ジャパンビバレッジ様、OSAJI様には、3331 ART FAIR 2020初日のプレビューにご来場いただいたVIPのお客様へのお土産として、各種飲料並びに、スキンケアセットをご提供いただきました。



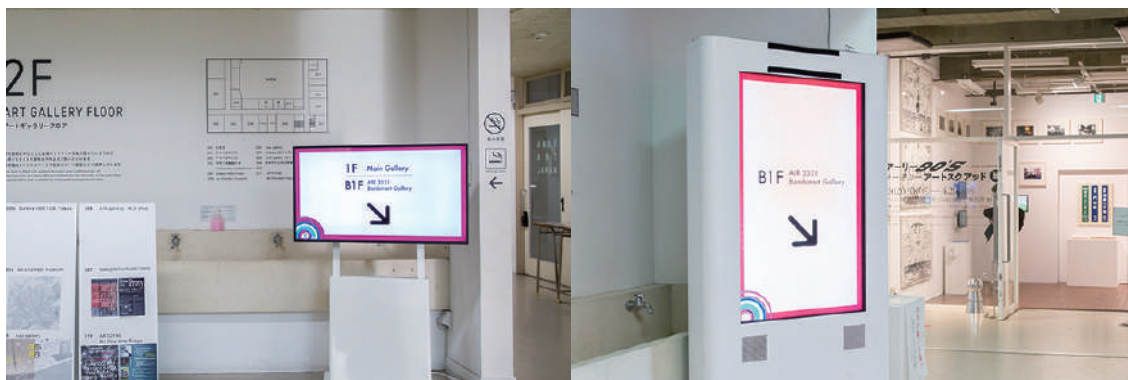
大同様

日頃より3331で開催する展覧会やイベントに、美しいスクリーンプリントの大判印刷で華を添えて下さる株式会社大同様には、3331 ART FAIR 2020のキービジュアルをプリントした屋外バナーをご提供頂きました。



ストリートメディア

アーツ千代田 3331内にオフィスを有し、デジタルサイネージの制作などを手掛けるストリートメディア様には、3331 ART FAIR 2020期間中にフロアガイドとして計3台のデジタルサイネージをお貸し出しいただき、各階に設置させていただきました。



COPAINS de 3331

アーツ千代田 3331 1階のCOPAINS de 3331様には、3331 ART FAIR 2020のキービジュアルからイメージを膨らませたスイーツやカプチーノ、並びに特別定食を限定コラボメニューとして来場者の皆様にご提供いただきました。



The Chain Museum様

3331 ART FAIR 2020コミュニケーションパートナーのThe Chain Museum様には、2019年開催に続き、同社開発のアプリ「ArtSticker」を通じたドネーション型の作家支援にご協力頂きました。また、屋上で展開されたキュレーション展示「Struggle for Tomorrow」(キュレーター青木彬)とのコラボレーションにより、現地でArtStickerのアプリを通じてプロジェクトにドネーションすると、出張喫茶のざらしコーヒーの提供や、アーティストが制作するオリジナルマスクの提供、アーティストによる作品解説を受けられるなどのインタラクティブな取り組みも行いました。



12

デザイン



ロゴ・キービジュアル

「Breath of the Artists.」というテーマに合わせ、アーティストの息遣いや波紋を視覚化。3331 ART FAIRの特色であるオルタナティブな勢いを感じる、エッジィでカラフルな色使いで表現しています。



キービジュアル

サイン計画



館内フラッグ



各エリア エントランスサイン



チケットカウンター



屋外バナー

各種広報物 (チラシ・ポスター)



B2 ポスター



A4 フライヤー (観音開き)



ガイドブック・その他制作物



公式ガイドブック (A5 サイズ P36)



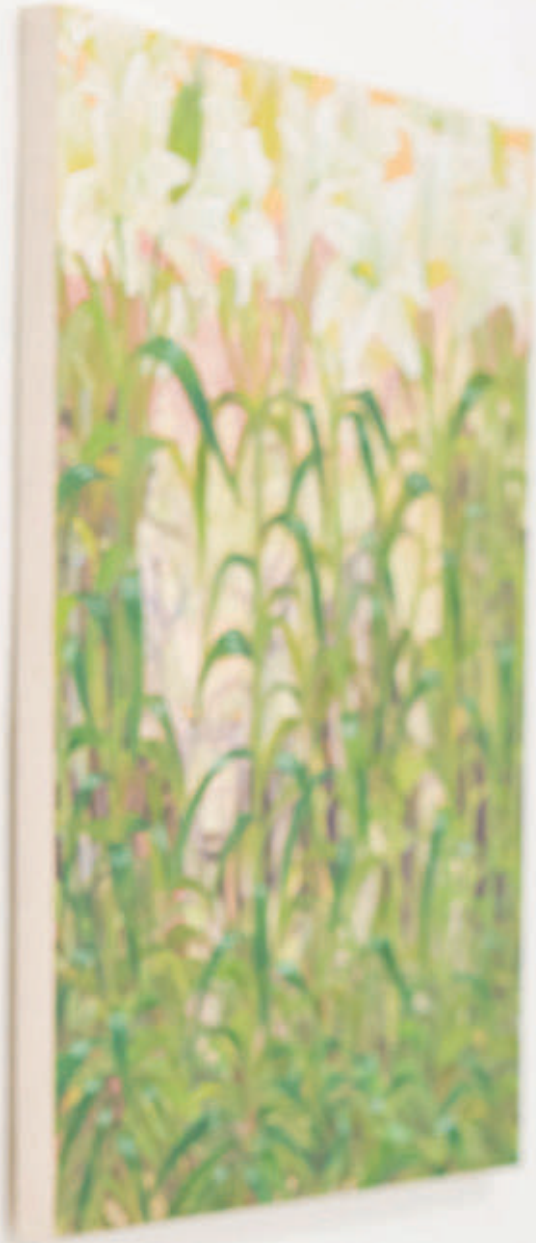
チケット各種



招待状

広報・プレス

13



PRESS RELEASE

報道関係者各位



2020年1月27日

出品アーティスト・出展ギャラリー、決定！
62名のアーティスト | 35のギャラリー | 6つの大学が参加
3331 ART FAIR 2020 開催のお知らせ



アーツ千代田 3331では、2020年3月18日(水)～3月22日(日)の5日間、第9回目となる「3331 ART FAIR 2020」を開催します。

今年は、会場構成を一新、1階メインギャラリー(Galleries -1F)には、国内外で活動する27のギャラリーがアートを展開、2階体育館(Selection - GYM)では、全国のキュレーター・美術関係者により選出された約50人の若手アーティストがグループ展形式で展示・販売します。また、同エリアには、美術系の大学6校が出展するほか、やなぎみわ氏、鈴木理策氏、岩崎貴宏氏といった日本を代表するアーティストやアートフェア初参加となるスプニ子 | x 西澤知美のユニットも出品。多様なアーティストによる表現がダイナミックに交わりまわります。

大型展示が可能な屋上をキュレーションするのは、若手キュレーターの青木彬成。パフォーマンスや壁画も組み込んだ企画に、ぜひご注目ください。B1階・2階では、館内のギャラリーが所属アーティストをプレゼンテーションし、3階やウッドデッキ、コミュニケーションスペースなど館内各所で、さまざまなアートプロジェクトに触れることができます。アーティスト対談、パフォーマンスやZINEの展覧会「Here is ZINE Tokyo 3331」も開催されるなど、会場のイベントも盛りだくさん。「買っ楽しむ」見る楽しみ「参加する楽しむ」が詰まった、同時代を生きるアーティストの息づかいをすぐ側で感じられる3331 ART FAIR 2020。多くの皆様にご来場いただき、周知にご協力願います。5行卒室しお楽しみください。



3331 ART FAIRとは

アートシーンをつくり出す同時代の多様なビジョンを踏まえ、コンテンポラリーアートへの新たな入り口や可能性を築くことを目指し、2013年にスタート、「芸術性と市場性」を両立させたアートフェアの発展にチャレンジし、表現活動や作品に電着芸術的価値を社会的・経済的価値として評価することを試みます。「作品購入・賞の授与」とするコレクター・ブライズや、個展開催をバックアップする「コマンドアーティスト」など、アーティストをサポートする独自のシステムも設け、アートマーケットの更なる拡充に向けた取り組みを続けています。



会期:2020.3.18(水)～3.22(日) 計5日間
会場:3331 Arts Chiyoda 全館
開催概要の詳細はリリースページをご覧ください
特設サイト▶▶▶<https://artfair.3331.jp/>

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:彦根・橋本・青木) URL:<https://www.3331.jp>

3331 ART FAIR 2020 vol.1
2/5



フェアディレクター・ステートメント

アートというフィールドの豊かさは、「寛容性と批評性」を支えられている。それは、いかなる表現が生まれようとする存在を全て受け止めようとすることであり、どんな価値観に対してでも正面から対峙し対話的なメッセージを生み出すということだ。

3331 ART FAIRの目指すところは、この「寛容性と批評性」が同時多発的に創発するフィールドを開拓していくことである。全国各地のキュレーターやギャラリスト、評論家、ジャーナリストが一堂に会し、同時代を生き抜くアーティストとコレクターに光を当て、そして、オルタナティブなアートフィールドが、既存の「芸術性」と市場性を問い直す原動力になっていくのである。

— 中村政人(3331 ART FAIR 総合ディレクター/3331 Arts Chiyoda 実行ディレクター)

3331 ART FAIR 2020 のみどころ

会場構成を一新

これまでメインギャラリー(1階)で行っていた、若手アーティストによるグループ展形式のフェアを、オルタナティブな雰囲気の特徴的体育館(2階)で行います。同エリアには、美術系の大学によるブースも設置され、600㎡の空間がフレッシュな感性で埋められます。そして、前回開催までは体育館で展開していた国内外のギャラリーによるブースは、メインギャラリー(1階)へ、洗練された展示空間で、ギャラリストやディレクターたちが選んだアーティストの作品を展示・販売します。

出展ギャラリーの多様な活動形態に注目

「Galleries - 1F」(1階メインギャラリー)には、コマースギャラリーだけでなく、オルタナティブスペースやアーティストコレクティブ、工房などさまざまなスペースやプロジェクトを運営するディレクターたちがブースを展開します。同時代を生きるアーティストの声を発信する場としての活動やアプローチにぜひご注目ください。(出展ギャラリー一覧は3P)

各地のキュレーター・学芸員らが選出したアーティスト54名が出品

「Selection - GYM」(2階体育館)及び「Selection - ROOFTOP」(屋上)では、全国で活動するエマージングアーティスト54名による作品を一堂に展示・販売します。キュレーター・学芸員らにより選出された陣の中からは、まだギャラリーに所属していない気鋭のアーティストも、現代社会と向き合い制作を続ける彼らの様々な作品を、ぜひご覧ください。(出品アーティスト一覧は4、5P)

やなぎみわ氏、鈴木理策氏、岩崎貴宏氏など日本を代表するアーティストも出品

日本を代表するアーティストや、アートフェア初参加となるスプニ子 | x 西澤知美によるユニット8名が「Selection - GYM」に特別参加します。圧倒的な存在感を放つ作品は、多くのエマージングアーティストの作品が展示される体育館という場でのような作用をもたらすか、期待が高まります。

「コレクター・ブライズ」「ArtSticker」「レコメンドアーティスト」などのバックアップ体制

3331 ART FAIRは、事業開始以来、アーティスト、ギャラリーだけでなくコレクターの皆さまも共にフェアを盛り上げてきました。「コレクター・ブライズ」では、「作品購入・賞の授与」という考えのもと、著名コレクターから企業人、クリエイターなど各界のキーパーソン約100人が「ブライズコレクター」としてフェアに参加します。アーティスト支援アプリ「ArtSticker」ともパートナーとして協賛し、会場後も継続的にアーティストを支援できる体制づくりに取り組んでいます。開催ごとに、出品アーティストの中から3〜4名が3331 Galleryで個展の機会を得る「レコメンドアーティスト」制度も設けるなど、制作・発表・購入全てを通してアートマーケットの拡充を目指します。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:彦根・橋本・青木) URL:<https://www.3331.jp>

3331 ART FAIR 2020 vol.1
3/5



会場構成 地下1階～屋上の全フロアを現代アートが埋め尽くす！



「Galleries - 1F」(1F メインギャラリー) 出展ギャラリー

独自の視点・運営ポリシーのもと活動を続ける国内外のアートギャラリーや工房、オルタナティブスペース (Art Center Ongoing、アサナク) やアーティストコレクティブ (IMaKoKo) など、美術界で注目される多彩な団体が1階メインギャラリーに集結。絵画、彫刻、ドローイング、写真、映像などさまざまな作品が展示され、価格帯も幅広く設定されています。台湾 (Galena Grand Side)、韓国 (S anta) などアジア圏からもギャラリーが出展し、アジアのアートシーンを感じられるのも特徴的です。

- | | | | |
|---------------------------|---------------------------|--------|------------------------|
| Art Center Ongoing(東京) | GALLERY馬(北海道) | 小林 真輝 | 堀川 すなお |
| アサナク(東京) | 求龍堂(東京) | 石田 真希 | 前田 エマ |
| IMaKoKo(大阪) | CAVE+AYUMI GALLERY(東京) | 石原 健一 | 南 晴子 |
| ettoiko(東京) | Kouchi Fine Arts(大阪) | 石場 文子 | 百瀬 文 |
| NPO Art Bridge(東京) | コバヤシ画廊(東京) | 大和 龍 | 高橋 大輔 |
| YEBISU ART LABO(東京) | 2b arts(COLONB ARTS)(ウツ木) | 宇平 陽史 | 高橋 大輔 |
| ONJI TAE PROJECT(東京) | CAI現代芸術研究所/CAI02(北海道) | 江上 誠 | 田中 秀和 |
| Gallery IRRITUM Tokyo(東京) | SOBASUTA合同会社(東京) | 岡川 恒輝 | 島田 正浩 |
| Gallery Q(東京) | DMOARTS(大阪) | 小川 武 | 富安 由真 |
| Galerie Grand Siècle(台北) | トーキョーアーツアンドスペース(東京) | 小田 青 | 永井 天穂 |
| GALLERY ART POINT(東京) | 版屋工房 エディション・ワークス(東京) | 上村 崇子 | NARAMIX/Unkaiet DAICHI |
| gallery G(広島) | 羊画廊(新潟) | 黄志 真生也 | 渡田 裕子 |
| GALLERY SOAP(福岡) | Room_412(東京) | 木原 千恵 | 平野 真美 |
| ギャラリー白(大阪) | | 古賀 学 | 藤田 紗衣 |
| | | 佐藤 有美 | 冬耳 |
| | | 小林 雄 | 後藤 史 |
| | | | 堀内 悠希 |

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:彦根・橋本・青木) URL:<https://www.3331.jp>

3331 ART FAIR 2020 vol.1
4/5



「Selection - GYM」(2F 体育館)

Selection - GYMは3つの企画で構成されています。ひとつは、各地のキュレーター・学芸員・美術関係者が推薦する若手アーティストによるグループ展形式の展示です。今年は、キュレーター一押 (YR) の確かな審美眼により、約50名のアーティストが国内外から選出されました。もうひとつは、美術大学によるブース出展。学生自らが出展で作品のプロモーション・販売にも携わります。そして今年は、やなぎみわ氏、鈴木理策氏、岩崎貴宏氏など日本を代表するアーティスト、アートフェア初参加となるスプニ子 | x 西澤知美によるユニットが特別に出品。多様なアーティストがダイナミックに交わる空間が広がります。

Selection - GYM アーティスト推薦者

全国のキュレーター、学芸員、美術関係者、3331入居ギャラリーがSelection - GYMに出品する48名のアーティストを選出しました。

- | | |
|---------------------------|--|
| 荒木 夏実(キュレーター/東京藝術大学助教授) | 高橋 洋介(宮沢19世紀美術館キュレーター) |
| 飯田 志保子(キュレーター) | 中村 史子(東京美術館学芸員) |
| 井波 吉太郎(東京新聞美術部学芸員) | 畑 健(千手美術館学芸員) |
| 大下 裕司(大塚中島美術館学芸員 学芸員) | 宮本 武典(キュレーター/角川文化館美術部クリエイティブディレクター) |
| 緒見 清(美術情報者/評論家、首都大学東京准教授) | アキバマゼ21/Gallery OUT of PLACE / ox-chamber museum/C/SHE Gallery/Nii Fine Arts Tokyo |
| 小倉 宗賢(大田区美術館 学芸員) | Bambinart Gallery/アーツ千代田 3331 |
| 高橋 塚木(CHAT 共同ディレクター) | |

【Selection - GYM 出品アーティスト】 - 48名

アートギャラリーで活躍する作家からギャラリーに所属しない作家、オルタナティブな場所を構えて活動する作家まで、独自のスタイルで制作・発表を続ける気鋭のアーティストを紹介しました。通常のアートフェアでは見られない、圧巻の展示にご期待ください。

- | | | |
|--------|------------------------|--------------------|
| 明石 雄 | 小林 真輝 | 堀川 すなお |
| 石田 真希 | 杉本 亮典 | 前田 エマ |
| 石原 健一 | 杉本 亮典 | 南 晴子 |
| 石場 文子 | 副島 しのぶ | 百瀬 文 |
| 大和 龍 | 高橋 大輔 | ユウサケゴシ |
| 宇平 陽史 | 島田 正浩 | 杉野 寛治 |
| 江上 誠 | 田中 秀和 | 橋野 明日香 |
| 岡川 恒輝 | 富安 由真 | 古村 浩治 |
| 小川 武 | 永井 天穂 | 稲島 ひとり |
| 小田 青 | NARAMIX/Unkaiet DAICHI | 渡邊 浩 |
| 上村 崇子 | 渡田 裕子 | BCL /Georg Tremmel |
| 黄志 真生也 | 平野 真美 | Fernanda Feher |
| 木原 千恵 | 藤田 紗衣 | 黄海欣 |
| 古賀 学 | 冬耳 | Hui Serene Sze Lok |
| 佐藤 有美 | 後藤 史 | Miriam Chu |
| 小林 雄 | 堀内 悠希 | Natasha Frisch |

【Selection - GYM 3331 select】 2020年の開催に合わせて、アーツ千代田 3331が推薦した8名のアーティスト

岩崎 貴宏	鴻池 朋子	佐藤 直樹	スプニ子 x 西澤 知美
O JUN	小林 正人	鈴木 理恵	やなぎみわ

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代) FAX:03-6803-2442
E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:彦根・橋本・青木) URL:<https://www.3331.jp>

"Selection - GYM" (2F 体育館) 出展大学

美術系の大学によるブースでは、在学生・卒業生の作品を学生自らが販売します。3331 ART FAIRは、これからの美術界を担うアーティストがアートマーケットを直に感じ、作品のプレゼンテーションを学ぶ実践的な場でもあります。

- | | |
|------------------|---------------|
| 愛知県立芸術大学 (愛知) | 東北芸術工科大学 (山形) |
| 秋田公立美術大学 (秋田) | 武蔵野美術大学 (東京) |
| 東京造形大学 (東京) ★初出展 | 横浜美術大学 (神奈川県) |



"Selection - ROOFTOP" (屋上)

元校庭という開放感溢れる空間を活かし、大型の作品やインスタレーション、パフォーマンスな要素も組み込んだ企画を行います。屋上をキュレーションするのは、次世代を担う若手キュレーターの一人・青木彬氏。屋上から見える街の風景を、どのように変化させるのか、展示だけでなく、会期中に予定されるパフォーマンスやイベントも見逃しません。



- 【Selection - ROOFTOP キュレーター】青木彬 (インディペンデント・キュレーター)
 【Selection - ROOFTOP アーティスト】
 今井 さつぎ 齋藤 悠汰 中島 晴矢
 遠藤 薫 佐藤 研吾 光岡 幸一

"Galleries - B1F/2F" (B1F&2F)

館内の地下沿いに立ち並ぶ入居ギャラリーが、所属アーティストによる作品を展示・販売します。エマージングアーティストの作品を主に取り扱うギャラリーや、版画を専門とするギャラリー、大学が母体となるギャラリーなど、館内を巡りながらそれぞれのコンセプトやアプローチによる展示をお楽しみください。

- | | | |
|-----------------------------------|------------------------------|--|
| ARTDYNE / Nii Fine Arts Tokyo(2F) | Gallery KIDO Press(2F) | |
| アキバタマビ21(2F) | 京銀工芸繊維大学 | |
| Gallery OUT of PLACE TOKYO(2F) | KYOTO Design Lab 東京ギャラリー(2F) | |
| Gallery IRRITUM Tokyo(2F) | CISHE Gallery(B1F) | |
| | Bambinart Gallery(B1F) | |

"Art Projects" (3階は中館内各所)

館内各所では、アートプロジェクトに触れる機会や関連イベントも開催されます。日比野克彦氏のプロジェクトルーム「日々々の明々後日」(3階)、アーツカウンシル東京による「Tokyo Art Research Lab Open Room 2020」(3階&地下1階)はスペースを開放し、活動資料や貴重なアーカイブを公開します。アーツ千代田 3331のレジデンスプログラム「AIR 3331」に参加中のアーティストも、作品やプロジェクトを発表(3階&地下1階)。この夏開催を予定している「東京ビエンナーレ2020」や真っ赤なベンチが印象的な「TOKYO BENCH PROJECT」(館内各所)も館内を色どり、全館がアートに包まれます。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442
 E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:森根・稲葉) URL:https://www.3331.jp

開催概要

- 会期:2020年3月18日(水)~3月22日(日)計5日間
- 時間:最終入場は閉場30分前まで
 3月18日(水)【プレビュー/INVITATION ONLY】14:00-17:00 【一般公開】17:00-20:00
 3月19日(木)~21日(土)12:00-20:00
 3月22日(日)12:00-18:30

■会場:3331 Arts Chiyoda(101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14)

■料金:チケット(ガイドブック付・期間中再入場可) 【一般】2,300円 【シニア(65歳以上)・学生】2,000円

- ★一部エリア無料 ★高校生以下無料 ★千代田区民は身分証明書のご提示で無料
- ★観覧者手帳をお持ちの方とそと付き添いの方1名は無料
- 東京アートパスポート 7,000円
- ※3331 ART FAIR 2020「アートフェア東京2020」/ART in PARK HOTEL TOKYO 2020をお得に開催する共催入場券です。特別協力美術家の特典付き。ご購入はイベントパス(https://eplus.jp/)で。

- 主催:3331 Arts Chiyoda
- 後援:千代田区、一般社団法人千代田区観光協会、駐日韓国大使館 韓国文化院、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター
- 協賛:株式会社丹青ディスプレイ、COEDOBREWERY
- 協力:アートのある暮らし協会、株式会社ジャパンビレージホールディングス、ストリートメディア株式会社、ソフトバンクロボティクス株式会社、デザイン株式会社、株式会社大同、パトロンプロジェクト、美術Academy&School、ワンピース倶楽部、COPAINS de 3331、FORMOSA ART FAIR、OSAJI、3331 Galleries
- コミュニケーションパートナー:The Chain Museum
- メディアパートナー:ART IT、月刊「Art Collectors」、月刊「美術の窓」、art in ASIA、Art In Culture、月刊ギャラリー、CINRA.NET、Tokyo Art Beat、ハフポスト日本版、美術手帖
- パートナーホテル:NOHGA HOTEL
- パートナーイベント:アートフェア東京2020、ART in PARK HOTEL TOKYO 2020、ART FUTURE

特設サイト▶▶▶<https://artfair.3331.jp/>◀◀◀

会期中の関連イベント、続々決定中!
詳しくは3331 ART FAIR 2020プレスリリース第二弾で!(2月中旬配信予定)
 会期中は、キュレーター×アーティストによるクロストーク、初心者やファミリー向けのツアー、観客による対談、出品アーティストによるパフォーマンスを多数実施するほか、アート古書マーケット「TOKYO BOOK PARK」、ZINEの展覧会「Here is ZINE Tokyo 3331」も登場します。「買う楽しみ」だけでなく、「参加する楽しみ」も随所に散りばめられた、充実の5日間です。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】 3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442
 E-MAIL:pr@3331.jp (広報担当:森根・稲葉) URL:https://www.3331.jp

SNS

実施内容の変更や当日券情報、新型コロナウイルスへの対応、会期後のオンラインギャラリーの告知など、様々なインフルエンサーな事柄に対して瞬時に情報を伝える媒体としてSNSを効果的に活用しました。特に2020年の開催では、即時性の高い媒体であるtwitterを積極的に活用し、様々な情報が錯綜する中、情報をいち早く正確に伝えることを重要視しました。

twitter ※インプレッション数の高かった投稿記事



インプレッション_23,919
エンゲージメント数_540



インプレッション_21,356
エンゲージメント数_844

Facebook ※リーチ数の高かった投稿記事



リーチ数_1,209
エンゲージメント数_79

Instagram ※リーチ数の高かった投稿記事



リーチ数_2,929
いいね数_150

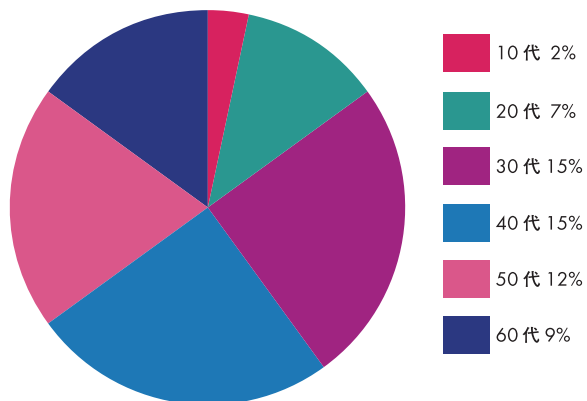
アンケート／
来場者、参加者の声

14

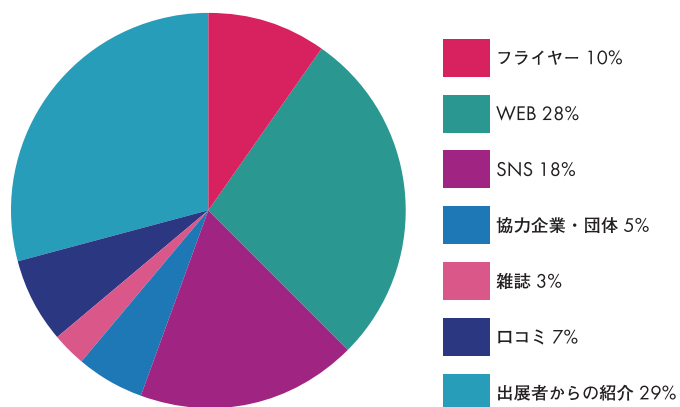


来場者アンケート

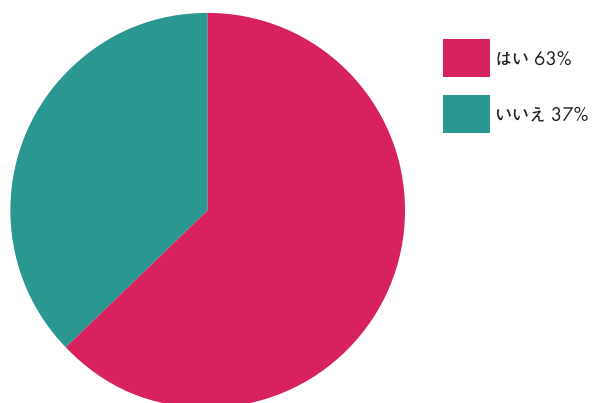
年代



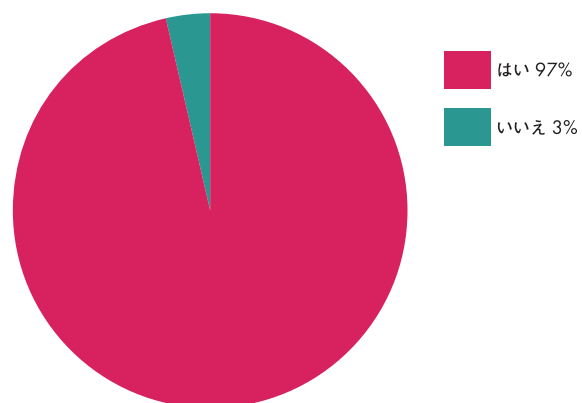
3331 ART FAIRを
知った理由



過去に3331 ART FAIRに
ご来場になりましたか？



アートフェアに、
よく行かれますか？



アーティストの声（閉幕後）

アーティストM（屋上出品作家）

屋上エリアが最終的に無料、予約不要に対応いただけて、とても良かった。屋上エリアのコンセプトとも通じる。入り口では厳戒態勢で規制が行われているけれど、屋上は打って変わって天気も良くのんびりしていて、子供が走り回ったり、ユートピアのような雰囲気だった。

アーティストK

開催に関しましてご苦心をしたと存じます。
こんな時にアートはどうしたら良いのでしょうか。
いちばん最初に不必要とされる。

アーティストF

この度はアートフェアに参加させて頂き大変光栄でした。
コロナの影響で日々状況が変わる中、3331事務局の皆様の迅速なご対応のおかげで、無事に展示ができましたこと大変ありがたく存じます。
作品に関しても、私は実際に来館が叶いませんでしたが、多くの来場者にご覧いただけましたこと大変嬉しく思います。

アーティストT

有事の中でも、発信していくような力強さを運営の皆様から感じられて、今回はフェアといったマーケット主体で、戦争などの有事とはまた別の種類ですが、改めて美術の意義を考えるいい機会でした。

アーティストA

私自身アートフェア自体への出展が今回初めてでしたが、それがこの3331 ART FAIRで本当に良かったと思います。素晴らしいチームの方々を支えて頂き、大変心強かったです。誠に有り難うございました。
今回の経験を生かして、これからも真摯に制作を続けていきたいと思っております。

アーティストK

参加型の展示は誰かが参加しないと皆素通り。ひとりでもやってくれている人がいれば1人2人とオーディエンスが増え、参加者も増えます。
そんなシーンは何度かありましたがその何度かのうちのいくつかは3331スタッフ皆様の参加のお陰でした。
さびしいのは嫌なのでマジで嬉しかったです。
そしてそれが仕込みではないマジな参加っぷり。
真剣にお話する顔、
出来上がったときの歓喜。
現代美術のギャラリー空間では見たことの無い異質感がサイコでサイコーでした。
そんなムードだからオーディエンスも知らぬ間にエキサイトし始めるのです。
作品がライブで出来上がるその瞬間の共有よ！

アーティストO

この様な状況下の中、今回開催に踏み切られた
3331の全てのスタッフ様達に大変感謝しております。

アーティストW

大変混乱した状況下での開催でしたが、緊急事態宣言が発令されたいま、3331 ART FAIRに参加できたこととても貴重な機会だったと改めて実感し、様々なコロナウィルスへの対策やサポートとともに開催を決断して下さった事務局の皆様にご心より感謝いたします。

アーティストY

僕個人的には今年のあのタイミングで3331アートフェアに参加できたことは本当に良かったと思っています。
作品の販売は勿論ですが、社会を見ていく人間、アーティストとしての振る舞いについてもとても考えさせられる貴重な体験でした。
コロナでまだまだ先が見えない中ではありますが、これからもがんばります!!!!

アーティストM

フェアでは本当にお世話になりました。
こんな状況のなか開催できて本当にうれしかったです。
3331のスタッフの皆さんのおかげです。皆さんアツい気持ちでやっていて、搬入中のハブニングも含めて、すごく楽しかったです。

推薦者Z

このたびは、コロナの感染拡大を受けての皆様のご努力の数々、素晴らしいことだと感嘆しています。
作家推薦という形で3331にかかわれますこと、あらためて光栄に感じています。

推薦者F

この度は、予想だもしなかった深刻な状況の中、アートフェアの成功を導いてくださり本当にありがとうございました。
ひとえに、皆様の情熱とアートへの愛情が燃料となっていたのだと改めて感じ入りました。
また、誰も体験したことのない困難の中、最後の最後まで紳士的で思いやりをもったご対応素晴らしかったと思います。

推薦者A

非常事態の中、3331のスタッフの方々の対応はさぞかし大変だったと想像します。
でもあのプロフェッショナルなスタジオでとてもスムーズに収録が進み、感動しました。
3人のアーティストに共通する身体との向き合い方には選んだ時点で興味があったのですが、コロナ危機によってそのテーマが際立つ結果になり、それに関するリアルで多様な意見を皆さんから伺うことができたのは私にとっては収穫でした。

イベント関係者

アートフェアを無事開催されたこと、3331のみなさまの姿に感銘受けました！
トークも時間を追うごとに深い議論になり、本当に良い機会を与えていただきありがとうございました。

アーティストの声（会期前に、開催についてヒアリングをした際、寄せられた声）

アーティストQ

事務局だけの方針で開催について最終的な判断をするのではなく作家側などにも意見を聞いていただけたこと自体が驚きでした。

今回のこのような過程を経ての最終決定は、きっと多くの方の意見が変わったものなのだと思います。

最終決定がどのような形であっても受け入れたいと考えています。

アーティストB

現時点で状況が把握できない混乱の渦中であり事態が長期化すれば更なる被害を被るかもしれません。

文化行事が不要不急という事では勿論ありませんが今後長期にわたって自粛が続かない為の中止とする考えも必要かと思えます。

また、私たちが表現者として活動できるのは鑑賞者と消費者があつての事です、この件で無観客に近い状態になる可能性も考えられます。

アーティストC

誰のせいでもないことでイベントが次々中止になり悔しい思いもあります。

今回アートフェアが中止になっても、なにかこの悔しい思いを取りかえすようなイベントを、もっと落ち着いた時期に1日だけでもやるのはいかがでしょう。

アーティストD

いただいた文面で、開催についてこれまで多くの議論が行われていることを想像できました。

微力ながら、一作家として意見を述べられたらと思います。

(略)私は開催できたらと思っております。清掃、喚起、体温測定等が行われる中ででしたら、開催の余地があるのではと思っております。

コロナは狭い空間に一定期間滞在したり、感染者が触れたドアノブに触るなどして起こっているようなので手で顔を触る、手で食事することを防ぐ、チラシ等は手で渡さないなどのことができれば大きな感染は起きにくいかと思います。

ですので、イベントをもし開催する場合は1階のイベントスペースを窓全開にされるなど3331の建築的特徴を活かして開催できるのではと思っています。(3月ですし、気温的にも問題ないかと。)

市中感染が始まり、もう誰が感染しているかは正直分からない状態なので自己防衛と(自分自身が感染していたら)移さないことの意識の向上を高めることも重要かと思えます。(街中を見るに、皆本当に大変な事態になるまでの危機管理の低さを感じます。)

アーティストI

さて、アートフェア開催についてのご相談連絡どうもありがとうございました。

私の開催可否の考えは、アートフェア東京が中止を発表した時点が、重要な分岐点だったと思っています。

正直、あの時点で中止になると思っておりましたので、最終確認もメールでさせていただきます。

私としてもダメージが最小限で、引き返せる地点でした。(現在は作品は出荷し、新幹線のチケットも取っております。)

しかし、予想に反し開催するという運営の発表に驚きつつも、皆さんの決意や覚悟を感じましたし、それ相応の対応も考えているということで、私もその考えに同意し、参加辞退という判断はしませんでした。

あの時点から今日まである程度、想定内の感染者数で推移しているように思います。

もしここで中止と判断するならば、あの時点と今で状況が決定的に違うという、納得できる説明がいただきたいです。

状況が決定的に違うのであれば、柔軟な判断は必要だとも思います。

ということで、状況が決定的に変わったように感じない今は、当初通り運営側の考えを尊重し、開催しても良いと思っています。

アーティストJ

コロナウイルスで大変な時期ですが、そういうときこそアートは意味を持つと思います。

3331 ART FAIR には通常通り参加いたします。

アーティストG

昨晚メールを頂いて、一晩よく考えて、今ご返信の文章を書いています。

私では判断できない様々な状況が起こっていますが、私は今も3/18の開催日を目指し、制作を続けております。

昨晚このまま作り続ける事に決めました。

どのような開催の形であれ、開催と参加を希望します。

この状況で我儘で勝手な意見だと思えます。ですが表現し、発表する機会を頂けた身としてこのご返信をさせていただきます。

アーティストH

昨晚の緊急相談のメール、確認致しました。

混乱が続く中、一つ一つ丁寧に状況や考えをお伝えいただけたこと、感謝申し上げます。

すぐには考えがまとまらずずっとパソコンに向き合って書いては消してをしていますがもう締め切りの正午に近いので…

箇条書きな上、自分本位の意見ばかりになってしまい申し訳ございません、お返事させてください。

アーティストM

私はフェア自体が開催されるのなら規模が半分でも、(仮に)初日前に急遽延期となったとしても、参加したいと思っています。

個人的にですが、うまくいかないことが多い中、今回のフェアに作家として参加できることは昨今制作を続けていく上でとっても励みになっていました。

アーティストL

アートフェアへの参加が初めてなわたしにとっては、あらゆることが勉強になっているこのイベントです。臨機応変に対応いただき、ありがとうございます。どんな状況であろうと与えていただいた機会を生かして全力で励みます。

アーティストK

内容に変更がでたとはいえ、

開催にこぎつけた英断、

感謝しております。

僕らもがんばります。

プライズセレクター・来場者の声

プライズセレクター

先般の3331 ART FAIR 2020では、様々配慮いただいた中で、おかげさまで、今年も素晴らしいアーティストの方々・作品との出逢いがありました。今回の開催にあたっては、時期的に大変なご苦労があったことと存じますが、開催くださり、参加させていただきまして心より感謝いたしますとともに、御礼申し上げます。

コロナで混乱の最中、難しい状況にも関わらずフェアを開催していただきありがとうございました。おかげさまでとても楽しませていただきました。楽しみにしていたイベントの多くが中止となったことは本当に残念ですが、来年こそ今年の分も含めて盛大なフェアになることを期待しています！

当日はゆっくりと作品をみたりアーティストのみなさんと交流することができ、私だけでなく参加した他の方からもとても楽しかった、という声がたくさんありました。こちらこそ、ありがとうございました。

アートフェアは無事に終わり何よりでした。本当にお疲れさまでした。

今回コロナの影響も有り会場に行くことができず、選考もできてない状態です。大変恐縮ですが、そのため、プライズなし、または選考できず、といった形にいただければ幸いです。

コロナ禍、爆発的に拡大、本当に開催出来て、良かったですね。

あんな最中でベストなイベント開催だったかと思えます。はじめてのアートフェアからすごい進化してて(涙)本当にお疲れ様でした！

他のフェアが軒並み中止される中での開催は、例外的なことばかりで、対応はさぞかし困難だったろうと存じます。にもかかわらずそれ程混乱もなく開催されたのは、スタッフの方々の献身的な努力故だと存じます。本当にお疲れさまでした。プライズの対応につきましても、時間外に気持ちよく対応していただき、感謝しております。ありがとうございました。

不可抗力のプレッシャーの中、開催されたこと、大きな覚悟と実務レベルの念入りな作業が必要だったとお察しします。今は、無事終了したことにホッとされているのではないのでしょうか。本当に本当にお疲れ様でした。私自身は会期中に伺えず、残念でしたが、アートは心のサンクチュアリです。先の見えない状況だからこそ、アートの力が必要だと強く思います。一方で、新しい時代に向けて、現地に足を運ぶなくても、アートの力を共有する方法を模索する時期に来ているのかもしれない。テクノロジーの進化もあり、部分的にリモートでの鑑賞が可能になってきているような気がします。これからの一層のご発展を期待しています。

with/after coronaでは必ずARTの力が必要ですので世界を励ますような発信をお願い致します。

来場者

今年は中止かと思っていたので、開催してくれてありがとうございました。

今後、日中韓台以外にも、タイ、インドネシア、ラオス…アジアなどの作家の作品を見る機会を増やしてほしいです。

若手を知る機会があり、うれしいです。来年も期待しています。

今回開催するにあたって関係者の皆さんは大変だったと思います。辛い時ですが、皆で頑張らしましょう。

コロナの中開催されたことに感謝と激励を送ります。

入場に時間がかかりすぎでした。中止や開催の決定が遅すぎて、遠方から来る人間にはホテルの手配など大変でした。

とても楽しく、イメージーションを掻き立てられました。今回の開催は特に大変だったと思います。頑張って開催して下さい、本当にありがとうございました。

コロナ禍の中、感染対策しつつ開催いただきありがとうございました。

規模縮小とはいえ、いろいろ面白い作品がありました。日本人の作家さんは面白い人が多いので、どんどん紹介してほしいです。

作家と直接対話できる場であってほしいと思います。

購入方法をもっとわかりやすくHPに記載してほしいです。

予約制のため、ゆったりと拝見できました。

縮小開催でしたが、実現できてよかったです。個々の作品をみるにはこれぐらいのほうがいいのかもしれない。全国の傾向を知るという点では昨年よりやや減ってしまいい残念です。

新型コロナウイルスの影響で、どうなるかと思っていましたが、開催されていることを知り、来られてよかったです。ギャラリー巡りも好きですが、まとまってたくさん作家の作品を見ることができるとアートフェアは毎年楽しみにしています。ありがとうございました。

屋上のゆるい感じがとても楽しかったです。屋上がとにかくいい空間になりますね。

面白い作品をたくさん見れて楽しかったです。また来場したいと思います。

楽しい作品に触れ心地よい時間でした。

今回コロナでとても縮小してしまったのですが、延期のところも多い中、頑張っただけだと思います。

知り合い同士で話していることが多かったのも、鑑賞しづらい場面がありました。

コロナウイルスの影響により、中止や延期が多いところ実施でき、よかったと思います。

大変な状況で開催していただきありがとうございました。

トラブルの中、とても整備されていて素晴らしいです。

予約制で人数を限る方式はゆっくり鑑賞できる点はメリットでした。

米澤さんと上村さんのパフォーマンスがとても良かった。即興性があり、場の空気を活かしていて、たまたま遊びに来ている子供とのコラボレーションがあったり。こんな時期だけど、観に来て良かった。

3331 ARTFAIRのコロナ対策すごかった。気概というかパワーを感じます。こういう形でイベントやれるんだというひとつのモデルケースをどんと提示されたといえますか…。予約制の入場制限で全く混雑はなく、じっくり観ることができました。そして、当たり前になる作品とも出会えて(実際、売れていて)、現実的なところで自分用にアート貯金の必要性を感じました。

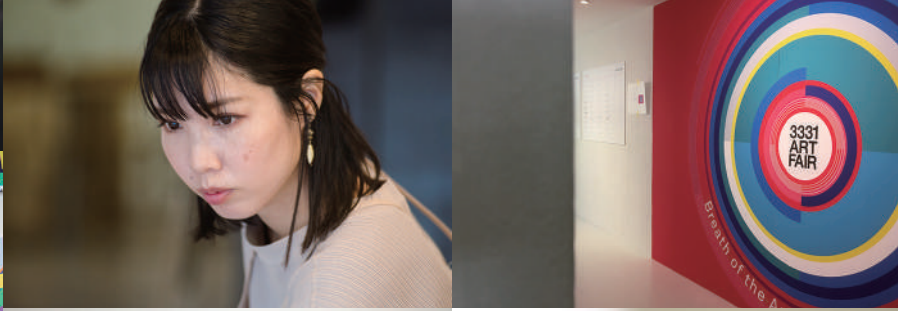
これくらいの方が(来場者数、規模)作品もゆっくり見れたし、作家ともコミュニケーションしっかり取れたし、充実感がある。



15

フェアを作った人々





[資料1]

3331 ART FAIR 2020
当初プラン

[資料2]

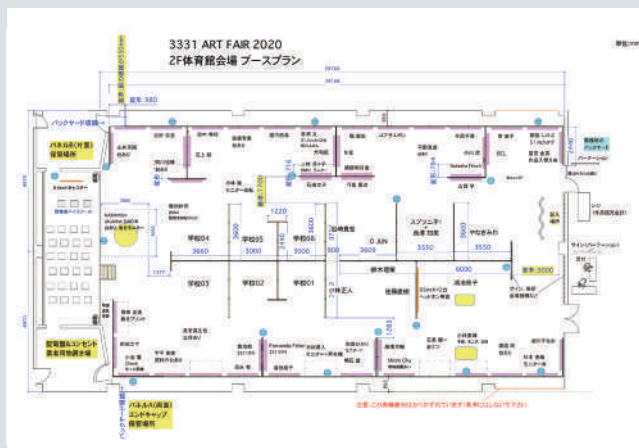
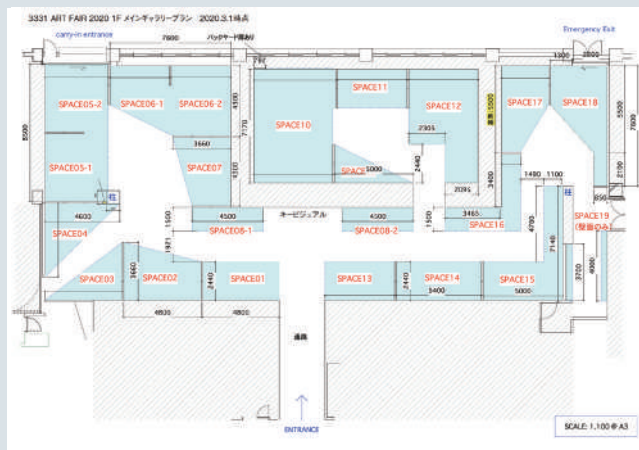
新型コロナウイルス等の
感染予防対策

[資料1] 3331 ART FAIR 2020 当初プラン

3331 ART FAIR 2020は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参加者の皆様へのヒアリングと事務局内での議論を重ね、苦渋の決断をもって、当初の企画内容を大幅に変更・一部中止し実施に至りました。本来参加を予定されていたギャラリー様、団体様、大学様、出演者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。同時に、実施内容の変更について、皆様からのご理解とご協力を賜りましたことに、心から御礼申し上げます。本項では、変更が行われる前の、当初の企画を記録として掲載いたします。

3331 ART FAIR 2020実施変更内容

1. 一般公開形式を中止し、完全予約制の限定公開形式での開催に変更。
2. 開催規模を縮小し、大会場2エリア（1Fメインギャラリー・2F体育館）を1エリアに変更。
3. 会場規模の縮小に伴い、2F体育館での展示を1Fメインギャラリーに変更。
4. 一部イベントの中止・延期。実施イベントについては無観客ライブ配信方式にて実施。
5. 飲食を伴う懇親会・イベントの中止。
6. 会期終了後のウェブ販売の導入。（許可を得た作家・作品に限定）



Galleries-1F

独自の視点・運営ポリシーのもと活動を続ける国内外のアートギャラリーや工房、オルタナティブスペースやアーティストコレクティブなど、美術界を形づくる多彩な27団体が1Fメインギャラリーに集結。絵画、彫刻、ドローイング、写真、映像などさまざまな作品が展覧され、価格帯も幅広く設定されています。台湾、韓国などアジア圏からもギャラリーが展覧し、アジアのアートシーンを感じられるのも特徴的です。※テキストは企画時のもの

Galleries-1F_ 出展団体一覧

Art Center Ongoing [東京]	GALLERY 門馬 [北海道]
アサクサ [東京]	求龍堂 [東京]
IMaKoKo [大阪]	CAVE-AYUMI GALLERY [東京]
eitoeiko [東京]	Kouichi Fine Arts [大阪]
NPO Art Bridge [東京]	コバヤシ画廊 [東京]
YEBISU ART LABO [愛知]	:b arts (COLONB ARTS) [ソウル]
ONJI TAE PROJECT [東京]	CAI 現代芸術研究所 /CAI02 [北海道]
Gallery IRRITUM Tokyo [東京]	SOBASUTA 合同会社 [東京]
Gallery Q [東京]	DMOARTS [大阪]
Galerie Grand Siècle [台北]	トーキョーアーツアンドスペース [東京]
GALLERY ART POINT [東京]	版画工房 エディション・ワークス [東京]
gallery G [広島]	羊画廊 [新潟]
GALLERY SOAP [福岡]	Room_412 [東京]
ギャラリー白 [大阪]	

Galleries-B1F/2F

館内の廊下沿いに立ち並ぶ入居ギャラリーが、所属アーティストによる作品を展示・販売します。エマージングアーティストの作品を主に扱うギャラリーや、版画を専門とするギャラリー、大学が母体となるギャラリーなど、館内を巡りながらそれぞれのコンセプトやアプローチによる展示をお楽しみください。 ※テキストは企画時のもの

Galleries-B1F/2F_ 出展団体一覧

Tokyo Art Research Lab	Gallery KIDO Press (2F)
Open Room 2020 (3F・B1F [B104])	京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 東京ギャラリー (2F)
ARTDYNE / Nii Fine Arts Tokyo (2F)	CfSHE Gallery (B1F)
アキバタマビ 21 (2F)	Bambinart Gallery (B1F)
Gallery OUT of PLACE TOKIO (2F)	
Gallery IRRITUM Tokyo (2F)	

Selection-GYM

Selection-GYMは3つの企画で構成されています。ひとつは、各地のキュレーター・学芸員・美術関係者が推薦する若手アーティストによるグループ展形式の展示です。今年は、キュレーター陣(下記)の確かな審美眼により、約50名のアーティストが国内外から選出されました。もうひとつは、美術大学によるブース出展。学生自らが会場での作品のプロモーション・販売にも携わります。そして今年は、やなぎみわ氏、鈴木理策氏、岩崎貴宏氏など日本を代表するアーティスト、アートフェア初参加となるスプツニ子!×西澤知美によるユニットが特別に出品。多様なアーティストがダイナミックに交わる空間が広がります。※テキストは企画時のもの

出展大学

愛知県立芸術大学 (愛知)	東北芸術工科大学 (山形)
秋田公立美術大学 (秋田)	武蔵野美術大学 (東京)
東京造形大学 (東京)	横浜美術大学 (神奈川県)

出展アーティスト

明石 雄 Yu Akashi	永井 天陽 Solaya Nagai
池田 嘉人 Yoshito Ikeda	NARAMIX×Ukulelist DAICHI
石黒 健一 Kenichi Ishiguro	濱田 路子 Michiko Hamada
石場 文子 Ayako Ishiba	平野 真美 Mami Hirano
犬和紙 Inuwashi	藤田 紗衣 Sae Fujita
宇平 剛史 Goshi Uhira	冬耳 Fuyuji
江上 越 Etsu Egami	堀 聖史 Satoshi Hori
岡川 恒輝 Koki Okagawa	堀内 悠希 Yuuki Horiuchi
小川 武 Takeshi Ogawa	堀川 すなお Sunao Horikawa
小田 香 Kaori Oda	前田 エマ Emma Maeda
上村 菜々子 Nanako Kamimura	南 靖子 Yasuko Minami
貴志 真生也 Maoya Kishi	百瀬 文 Aya Momose
木原 千春 Chiharu Kihara	ユアサ エボシ Ebosi Yuasa
古賀 学 Manabu Koga	弓指 寛治 Kanji Yumisashi
後藤 有美 Yumi Goto	横野 明日香 Asuka Yokono
小林 椋 Muku Kobayashi	吉村 宗浩 Munehiro Yoshimura
小林 勇輝 Yuki Kobayashi	和島 ひかり Hikari Wajima
杉本 克哉 Katsuya Sugimoto	渡邊 洵 Makoto Watanabe
須永 有 Aru Sunaga	BCL / Georg Tremmel
副島 しのぶ Shinobu Soejima	Fernanda Feher
高橋 大輔 Daisuke Takahashi	黃海欣 Hai-Hsin Huang
田中 秀和 Hidekazu Tanaka	Hui Serene Sze Lok
飛田 正浩 Masahiro Tobita	Mirim Chu
富安 由真 Yuma Tomiyasu	Natasha Frisch

3331 select

岩崎 貴宏 Takahiro Iwasaki	鈴木 理策 Risaku Suzuki
○ JUN	スプツニ子! × 西澤 知美 Sputniko! × Tomomi Nishizawa
鴻池 朋子 Tomoko Konoike	やなぎみわ Miwa Yanagi
小林 正人 Masato Kobayashi	

推薦者・団体

荒木 夏実 (キュレーター / 東京藝術大学准教授)
飯田 志保子 (キュレーター)
井波 吉太郎 (東京都現代美術館 学芸員)
大下 裕司 (大阪中之島美術館準備室 学芸員)
楠見 清 (美術編集者 / 評論家、首都大学東京准教授)
小金沢 智 (太田市美術館・図書館 学芸員)
高橋 瑞木 (CHAT 共同ディレクター)
高橋 洋介 (金沢 21 世紀美術館 キュレーター)
中村 史子 (愛知県美術館 学芸員)
畑井 恵 (千葉市美術館 学芸員)
宮本 武典 (キュレーター / 角川文化振興財団クリエイティブディレクター)

アキバタマビ 21 / Gallery OUT of PLACE /
ex-chamber museum / CFSHE Gallery / Nii Fine Arts Tokyo /
Bambinart Gallery / アーツ千代田 3331

Selection-ROOFTOP

元校庭という開放感溢れる空間を活かし、大型の作品やインスタレーション、パフォーマンスな要素も組み込んだ企画を行います。屋上をキュレーションするのは、次世代を担う若手キュレーターの一人・青木彬氏。屋上から見える街の風景を、どのように変化させるのか。展示だけでなく、会期中に予定されるパフォーマンスやイベントも見逃せません。 ※テキストは企画時のもの

Selection-ROOFTOP_出展者一覧

[Selection - ROOFTOP キュレーター]
青木 彬 (インディペンデント・キュレーター)

[Selection - ROOFTOP アーティスト]

今井 さつき Satsuki Imai	遠藤 薫 Kaori Endo
齋藤 恵汰 Keita Saito	佐藤 研吾 Kengo Sato
中島 晴矢 Haruya Nakajima	光岡 幸一 Koichi Mitsuoka

Art Projects

館内各所では、アートプロジェクトに触れる機会や関連イベントも開催されます。日比野克彦氏のプロジェクトルーム「日々の明々後日」(3F)、アーツカウンシル東京による「Tokyo Art Research Lab Open Room 2020」(3F・B1F)はスペースを開放し、活動資料や貴重なアーカイブを公開します。

アーツ千代田 3331のレジデンスプログラム「AIR 3331」に参加中のアーティストも作品やプロジェクトを発表(3F・B1F)。「東京ビエンナーレ2020」や真っ赤なベンチが印象的な「TOKYO BENCH PROJECT」(館内各所)も館内を色どり、全館がアートに包まれます。

※テキストは企画時のもの

Art Projects_出展者一覧

Tokyo Art Research Lab Open Room 2020 (3F・B1F)

日々の明々後日 (3F)

AIR 3331 (3F・B1F)

TOKYO BENCH PROJECT (館内各所)

東京ビエンナーレ 2020 (1F)

イベント一覧

1. トークイベント

タイトル	都市は文化(アート)でよみがえる
実施形態	中止
日時	3月18日(水) 18:00 - 19:00
場所	2階 体育館ステージ
料金	500円 (お席代)
出演者	大林剛郎 (株式会社大林組 代表取締役会長、公益財団法人大林財団 理事長) 飯田志保子 (キュレーター) モデレーター: 中村政人 (3331 ART FAIR 総合ディレクター)
概要	3331 ART FAIR 2020 のオープニングトークとして、大林剛郎氏(株式会社大林組 代表取締役会長、公益財団法人大林財団 理事長)と飯田志保子氏(インディペンデント・キュレーター)をお招きした特別対談を実施します。 2020を契機に更なる変貌が予測される都市に対して、アートはどのようなビジョンを提示できるのか。その土地に根付く文化や歴史、そこで生きる人々とアートは今後どのような関係を築いていくのでしょうか。これからのアートと都市の関係性について探ります。 ※テキストは企画時のもの

タイトル	支援・評価・アーカイブ・共有するアート 新時代のプラットフォーム構築
実施形態	無観客・ライブ配信に変更して実施
日時	3月20日(金・祝) 13:00 - 14:30
場所	B104 配信スタジオ (当初予定は2階 体育館ステージ)
料金	無料 (当初予定は500円)
出演者	遠山正道 (株式会社スマイルズ 代表取締役社長、 The Chain Museum 代表取締役社長) 施井泰平 (スタートバーン株式会社 代表取締役) モデレーター: 橋爪勇介 (ウェブ版「美術手帖」編集長)
URL	https://www.youtube.com/watch?v=EZ5xZKUUY08 *アーツ千代田 3331 YouTube チャンネルで公開中

※概要等の詳細は、実施内容をご参照のこと

タイトル	#ハフポストLIVE x 3331 ART FAIR 2020 スペシャルトーク 「現代アートで問いかける、女子受験生が減点される社会」
実施形態	無観客・ライブ配信 (#ハフポストLIVEで配信)
日時	3月21日(土) 18:00 - 19:00
場所	B104 配信スタジオ (当初予定は2階 体育館ステージ)
料金	無料 (当初予定は500円)
出演者	スブツニ子! (アーティスト) 竹下隆一郎 (ハフポスト日本版 編集長)

※概要等の詳細は、実施内容をご参照のこと

タイトル	“アートで生きる” 教育とは ～出展6大学によるトーク～
実施形態	中止
日時	3月22日(日) 13:00 - 14:30
場所	2階体育館ステージ
料金	無料
出演者	倉地比沙支 (版画家、愛知県立芸術大学油画専攻教授・同大学資料館長) 藤浩志 (美術家、秋田公立美術大学大学院教授、 NPO法人アーツセンターあきた理事長) 森山貴之 (横浜美術大学 美術デザイン学科 准教授) 岩田壮平 (武蔵野美術大学 日本画学科 准教授) 深井聡一郎 (東北芸術工科大学 美術科工芸コース 准教授 大学院芸術文化専攻長) 大橋博 (彫刻家、東京造形大学彫刻専攻領域 教授)

概要 3331 ART FAIR 2020 の Selection - GYM(2階体育館)に出展する6つの美術系大学から教授や大学関係者をお招きしたクロストークです。大学によるブースでは、作品のプロモーションや販売に学生自らが携わります。今後の美術界を担うアーティストがアートマーケットを直に感じ、作品のプレゼンテーションを学ぶ実践的な場でもある3331 ART FAIR。アーティストになるだけでなく、キュレーターやアートマネジメント、企画・プロデュースや広報などアートに関わって生きていく方法は多様化している現在。在学中に学び経験したことを活かして、卒業後はどのように社会でアートを実践していくことができるのでしょうか。今日の学生の興味・関心や将来への展望に、大学での教育内容や支援はどう対応しているのでしょうか。教育現場の状況や取り組み、課題についてお話を伺いながら、これからの時代に「アートで生きる」ことについて考察します。※テキストは企画時のもの

2. クロストーク「キュレーター × アーティスト」シリーズ

タイトル クロストーク「キュレーター × アーティスト Vol.1」
荒木夏実 × 小林勇輝 & 副島しのぶ & 和島ひかり

実施形態 無観客・ライブ配信に変更して実施（副島氏はSkypeにて参加）

日時 3月19日(木) 16:00 - 17:00

場所 B104 配信スタジオ（当初予定は2階 体育館ステージ）

料金 無料

出演者 荒木夏実（キュレーター／東京藝術大学准教授）
小林勇輝・副島しのぶ・和島ひかり（アーティスト）

タイトル クロストーク「キュレーター × アーティスト Vol.2」
小金沢智 × 後藤有美 & 須永有

実施形態 中止

日時 3月20日(金・祝) 16:00 - 17:00

場所 2階体育館ステージ

料金 無料

出演者 小金沢智（太田市美術館・図書館学芸員）
後藤有美・須永有（アーティスト）

タイトル クロストーク「キュレーター × アーティスト Vol.3」
青木彬 × 中島晴矢 & 光岡幸一

実施形態 無観客・ライブ配信に変更して実施

日時 3月21日(土) 13:30 - 14:30

場所 B104 配信スタジオ（当初予定は2階 体育館ステージ）

料金 無料

出演者 青木彬（インディペンデント・キュレーター）
中島晴矢・光岡幸一（アーティスト）

タイトル クロストーク「キュレーター × アーティスト Vol.4」
井波吉太郎 × 上村菜々子 & ユアサエボシ & 吉村宗浩

実施形態 中止

日時 3月21日(土) 16:00 - 17:00

場所 2階体育館ステージ

料金 無料

出演者 井波吉太郎（東京都現代美術館 学芸員）
上村菜々子・ユアサエボシ・吉村宗浩（アーティスト）

タイトル クロストーク「キュレーター × アーティスト Vol.5」
宮本武典 × 小田香 & 飛田正浩 & 前田エマ

実施形態 無観客・ライブ配信に変更して実施

日時 3月22日(日) 16:00 - 17:00

場所 B104 配信スタジオ（当初予定は2階 体育館ステージ）

料金 無料

出演者 宮本武典（キュレーター）
小田香・飛田正浩・前田エマ（アーティスト）

3. パフォーマンス

タイトル パフォーマンス by 上村菜々子
「タップが描くー tap × drawing /
米澤一平 × 上村菜々子 × J」

実施形態 当初は2階体育館での実施を予定していたが、換気が良く、
密集空間になりにくいコミュニティスペースに会場を変更
して実施

日時 3月18日(水) 14:30 - 15:30

場所 1階コミュニティスペース（当初は2階体育館を予定）

料金 無料

出演者 上村菜々子（アーティスト/ダンサー）
米澤一平（タップダンサー）、J（振付家/映像作家）

※概要等の詳細は、実施内容をご参照のこと

タイトル パフォーマンス by NARAMIX × Ukulelist DAICHI
「Menehune」

実施形態 中止

日時 3月19日(木) 12:30 - 13:10、17:00 - 17:40
3月21日(土) 12:30 - 13:10、17:00 - 17:40

場所 2階 体育館エリア

料金 無料

出演者 NARAMIX × Ukulelist DAICHI（アーティスト）

概要 "NARAMIX × Ukulelist は、版画、油彩、映像、パフォーマンスなど幅広い表現を行うアーティスト NARAMIX と、10歳でウクレレと出会い、様々な楽器とのコラボレーションや作曲・編曲、ワークショップ、ライブ等で活動する Ukulelist DAICHI による、姉と弟のユニット。二人は「共生と循環」をテーマに、その時々で変化する自然発生的な作品を生み出します。今回 3331 ART FAIR 2020 の Selection - GYM (2階体育館) に出展する作品「Menehune」を、パフォーマンス形式で発表します。Ukulelist DAICHI によるミニマルなウクレレの演奏の中、NARAMIX が即興的に作品を制作する、コラボレーションパフォーマンスです。
※テキストは企画時のもの

タイトル パフォーマンス by 阿部真理亜 + 花沢忍
「on the q.t. (with banana)」

実施形態 延期（延期日程未定）

日時 3月20日(金・祝) 14:00 - 14:30、
17:30 - 18:00、19:00 - 19:30

場所 会場内

料金 無料

演出・振り付け 阿部真理亜（ダンサー / パフォーマンスアーティスト）

演出・絵画 花沢忍（アーティスト）

パフォーマー 川田龍、小林萌、コラス愛、鈴木春香、
手塚バウシュ、中村駿

概要 ダンサー / パフォーマンスアーティストの阿部真理亜氏と、絵画制作や詩作などを行うアーティスト 花沢忍氏によるスペシャルパフォーマンスを行います。二人は2019年に「No border」として中之条ビエンナーレに参加し、パフォーマンスと絵画の接点を探る試みを行うなど、幅広い表現活動を展開しています。3331 ART FAIR 2020 では、複数の空間を歩き来しながら、絵画作品と生身の身体、そして空間と呼応し合うパフォーマンスを行います。予約不要でご覧いただけます。パフォーマンスの開催場所については、当日館内でのご案内をご確認ください。
※テキストは企画時のもの

4. ツアー

タイトル	みてみて！な～に？おやこで楽しむ鑑賞ツアー
実施形態	中止
日時	3月19日(木) 14:00 - 15:00
場所	会場内
料金	無料
ガイド	稲葉智子 (3331 Arts Chiyoda 広報)
概要	アートに触れる機会をつくりたい、家族でアートを楽しみたい！でも小さい子どもを連れて行くのはちょっと心配……。そんな保護者の方も安心してご参加いただけるファミリー向けのツアーです。地下から屋上まで、校舎を利用したアートセンターを舞台に開催される3331 ART FAIR 2020。「みてみて！な～に？おやこで楽しむ鑑賞ツアー」では、開放感あふれる屋上と2階体育館の会場を中心にご案内します。おやこの会話を楽しみながら、たくさんの「みてみて！」を見つけてください。※テキストは企画時のもの

タイトル	マイ・ファースト・アートを見つけよう
実施形態	中止
日時	3月19日(木) 19:00 - 20:00
場所	会場内
料金	無料
ガイド	玉置真 (合同会社玉置プロダクション 代表、インストララー)
概要	アート鑑賞が好き、そして、将来的に作品を購入してみたいと思っている方にオススメの対話型アートツアーです。「購入するとしたら、どの作品だろう」「作品」と「わたし」の関係を意識しながら会場を巡ることで、作品の魅力や特徴がより明確に浮かび上がり、今の自分にぴったりな作品が見えてくるかもしれません。「見る楽しみ」はもちろん「つながる喜び」に気づかせてくれる初めての作品「マイ・ファースト・アート」に出会うきっかけを3331 ART FAIR でつくりませんか？ ※テキストは企画時のもの

タイトル	アートフェアから読み解く現代アート ～ディレクタートーク&ツアー～
実施形態	中止
日時	3月20日(金・祝) 18:00 - 19:30
場所	会場内
料金	1000円(ワンドリンク付)
ガイド	中村政人 (3331 ART FAIR 総合ディレクター/ 3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター)
概要	アーティストたちは、その表現活動を通して現代社会の状況や課題にどのようにアプローチしているのでしょうか。アート作品が発する社会への問いを理解することは、感性を磨き教養を深めるだけでなく、価値観や基準が大きく変化し、ますます多様化する社会において必要な発想力や創造力を培うことにつながるといえます。前半のトークでは、アーティストであり3331 ART FAIR 総合ディレクターの中村政人が、現代アートを読み解く際に重要な視点や作品の見方についてお話しします。後半のツアーでは、実際にアートフェア会場を巡ってさまざまな作品を鑑賞し、作品に対する理解を深めていきます。美術鑑賞のポイントを知りたい方やアートコレクションにご興味のある方はもちろん、ビジネスパーソンによる美術やアートへの関心が高まる中、美術を通じて得た気づきやクリエイティビティをビジネスシーンで発揮するための第一歩としても、ぜひお気軽にご参加ください。※テキストは企画時のもの

5. マーケット

タイトル	Here is ZINE Tokyo 3331
結果	延期 (延期日程未定)
日時	3月19日(木)～3月21日(土) 12:00 - 20:00 3月22日(日) 12:00 - 18:30
場所	1階コミュニティスペース
料金	無料
企画・キュレーション	ENLIGHTNMENT
概要	ヒロ杉山氏が率いるクリエイティブユニット「ENLIGHTENMENT」が企画・キュレーションするZINEの展覧会「Here is ZINE Tokyo」が、3331 ART FAIR 2020に特別参加！今年秋に20回目の開催を迎える同展では、作り手のイメージがダイレクトに表現された作品が毎回多数発表されます。「Here is ZINE Tokyo 3331」では、約50名のアーティスト・クリエイターによる手づくりZINEを展示・販売します。さまざまな表現が繰られたZINEとの出会いを、ぜひお楽しみください。※テキストは企画時のもの

タイトル	TOKYO BOOK PARK x 3331 ～トキメク古書のアートな広場～
実施形態	延期 (延期日程未定)
日時	3月19日(木)～3月21日(土) 12:00 - 20:00 3月22日(日) 12:00 - 18:30
場所	B105 マルチスペース、B1F 廊下
料金	無料
ガイド	smokebooks スモークブックス、クラリスブックス、 analog books、古書 瀧堂、ATELIER、アルスクモノイ、 リズム&ブックス、東京くりから堂、一角文庫
概要	個性的な書店が多数出展する「TOKYO BOOK PARK」が今年も3331 ART FAIR に登場！アート、デザイン、写真、ファッション、サブカルチャーから哲学、文学、絵本、映画、SF、漫画、さらに昭和の古本や雑誌まで、3331 ART FAIR 2020にあわせてセレクトされた本が集まる特別な4日間です。※テキストは企画時のもの

[資料2] 新型コロナウイルス等の感染予防対策

3331 ART FAIR 2020は、行政並びに専門機関からの発表を真摯に受け止め、会期以前より千代田区保健所への複数回に渡る相談を行い、保健所からの指導を元にした感染防止対策を講じた上で実施に至りました。本項では、3331 ART FAIR 2020（アーツ千代田 3331）が行った感染防止対策を資料として掲載いたします。

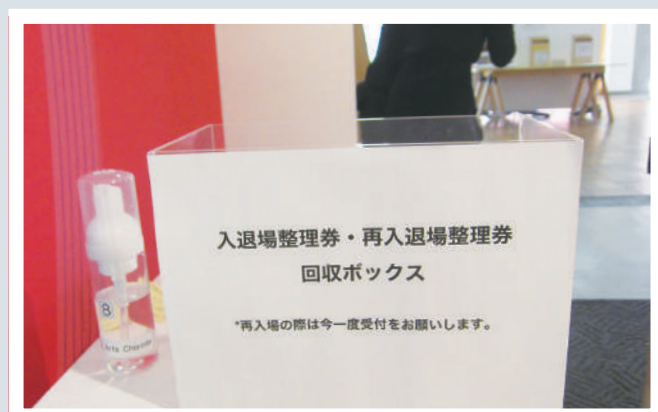
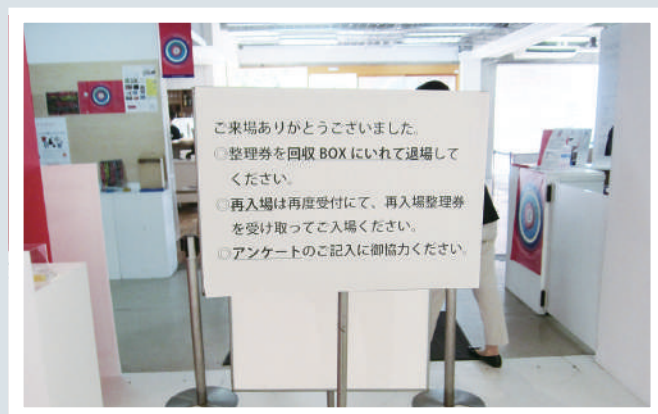
内容

- ① 入場者数の制限
- ② 専門清掃員による清掃
- ③ アルコール消毒液の各エリア入口への設置
- ④ アーツ千代田 3331全館、並びに会場内の換気
- ⑤ 非接触型体温計による来場者全員の体温測定と、救護室の設置
- ⑥ 来場者の個人情報の取得
- ⑦ 来場者への注意喚起
- ⑧ スタッフの体調管理とマスク着用
- ⑨ その他

① 入場者数の制限

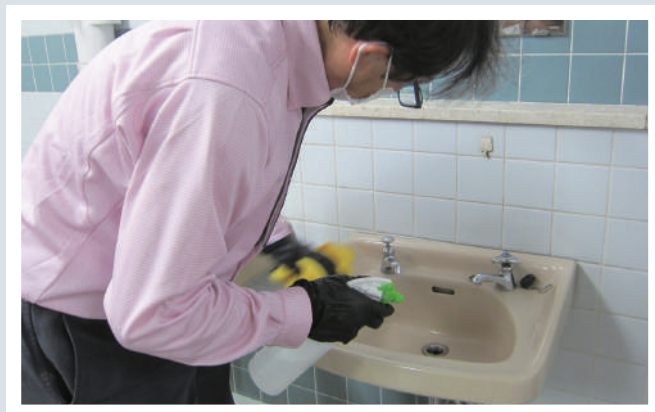
一般公開形式を取りやめ、購入を検討する方による事前予約制での限定入場の方式を導入し、入場者数の制限を実施。1Fメインギャラリー（約600㎡）においては、2時間で上限70名という入場者制限を行い、1名の来場者に対して、3m×3m四方、平均9㎡の周囲面積を確保するべく、会場整理を行いました。

※来場者、アーティスト、スタッフを含めた在廊総数での人数カウントを実施
※事前予約は、専用の予約フォーム及び、外部パートナーのサービスを利用



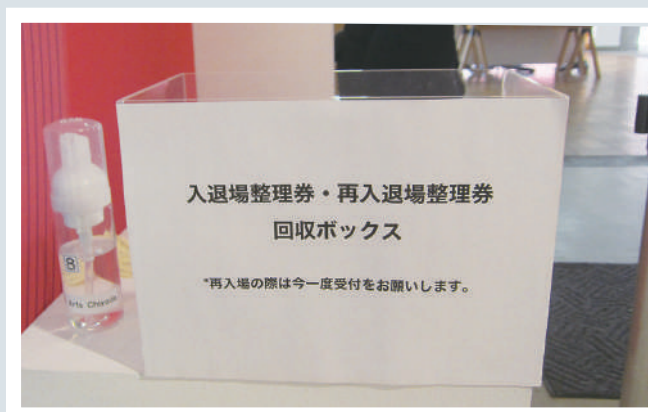
② 専門清掃員による清掃

3/18～3/22のアートフェア会期中、専門清掃員がアーツ千代田 3331館内に常駐し、お手洗いのドアや各階に設置している水場など、不特定多数が接触する箇所を1時間に1回を基本とし消毒しました。



③ アルコール消毒液の各エリア入口への設置

来場者の方にお使いいただけるアルコール消毒液を各エリア入口に設置し、来場の際には、手指の消毒にご協力をお願いするよう誘導いたしました。同時に、多くの来場者の往来が見込まれる1Fには、廊下等に3箇所と、アートフェア受付、購入申込書の記帳台にも個別のアルコール消毒液を準備し、共有物の利用の際に利用できるようにしました。



④ 全館、並びに会場内の換気

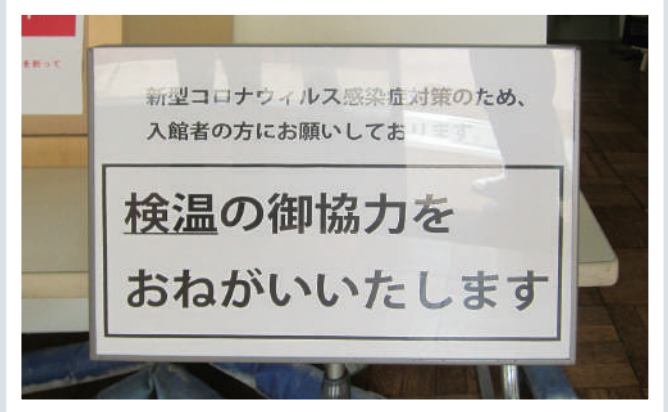
会期中、通常開館時よりも対応を強化し、換気のための開放箇所・時間を増やして実施しました。具体的には、9:30～21:00の時間帯は、1階の大窓・各フロアの非常扉・屋上入口の鉄扉・会場内の全窓を開放したままにし、全館に新鮮な空気が循環する環境をつくりました。同時に、風の強さや人の流れにも臨機応変に対応し、窓や扉の隙間の大きさを調整することによって、より良い換気環境と鑑賞空間の創出に努めました。

自然の風を取り入れ循環させる換気対策と並行し、館内には、大型の扇風機2台（地下1階、3階廊下）、通常の扇風機2台（1階廊下）、サーキュレーター 2台（1階事務所、1階メインギャラリー）、会期中ダイソン様に無償貸与いただいたウイルス除去の空気清浄機能を持つ温冷風機を4台（1階メインギャラリー内）設置し、空気の対流を常時館内に作りました。



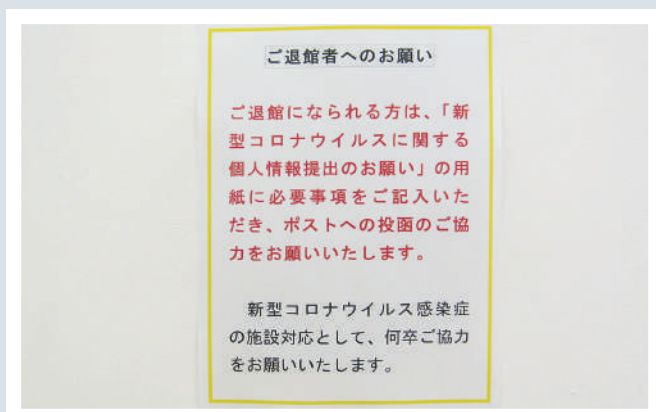
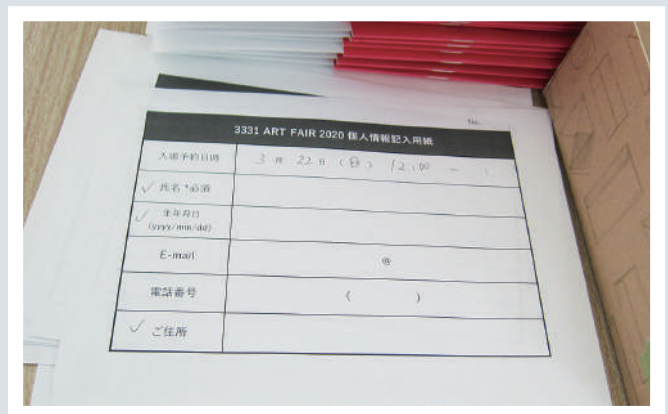
⑤ 非接触型体温計による来場者全員の体温測定と、救護室の設置

1F入口では、非接触型体温計による来場者全員の体温の計測を行い、高熱の方は来場をお断りするオペレーションを実施しました。事前の呼びかけもあり、会期中体調の悪い方や高熱の方はお一人も来場されませんでした。体温測定と並行して、会期中体調が悪くなった方にお休みいただくための救護室を館内に設置しました。(会期中の利用者数はゼロ)



⑥ 来場者の個人情報の取得

万が一の新型コロナウイルス感染者の発生に備え、専門機関による感染経路調査の一助となるべく、全来場者に個人情報をご記入いただくよう、1F入口、並びに受付カウンターにて依頼・誘導いたしました。

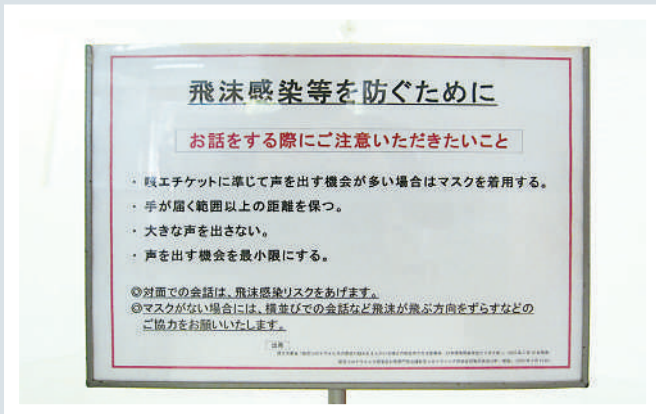


⑦ 来場者への注意喚起

3331 ART FAIR 2020ウェブサイトでの事前告知や館内各所への掲示により、ご来場にあたっての注意喚起を行いました。同時に館内各所では飛沫感染防止の為の注意文を掲示し、感染防止の為のアナウンスを行いました。

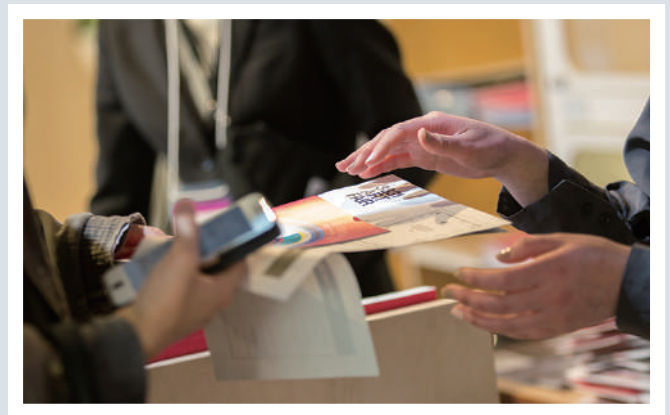
注意喚起の内容

1. 発熱のある方のご来場は、ご遠慮ください。
2. 発熱がなくとも咳などの風邪の症状が過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方は、ご来場をご遠慮ください。
3. 感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方は、ご来場をご遠慮ください。
6. マスク着用のご協力をお願いします。
7. 換気のため館内が暖まらず冷える可能性がありますので、温度調整をしやすい服でお越しください。



⑧ スタッフの体調管理とマスク着用

スタッフの体調管理の為、日次での体温計測を義務づけるほか、マスク着用と非接触形式での接客に努めました。



⑨ その他

1. 開催に合わせて、急遽3331オリジナルマスク（洗濯可能）を130枚制作。マスクを持っていない来場者やアーティストにはショップにて安価で販売しました。



2. アーティストの自発的なアクションも生まれ、屋上の展示エリアでは、来場者のオリジナルマスクを制作するワークショップも開かれました。



3. ソフトバンクロボティクス様のご協力により、人型ロボットPepperが感染防止対策を呼びかけるという特別なプログラミングを行い、来場者の誘導に努めていただきました。



3331 ART FAIR 2020

[会期]

2020年3月18日(水) - 22日(日)

3月18日(水) 14時～20時 ※ご招待のみ
3月19日(木)～3月21日(土) 12時～19時
※事前予約・入場制限による限定公開
3月22日(日) 12時～18時30分
※事前予約・入場制限による限定公開

〒101-0021

東京都千代田区外神田6丁目11-14

TEL 03-6803-2441 (代表)

FAX 03-6803-2442

[主催]

アートフェア 2020 実行委員会

[後援]

駐日韓国大使館 韓国文化院
台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

[協賛]

株式会社丹青ディスプレイ
COEDOBREWERY

[協力]

アートのある暮らし協会、株式会社ジャパンビバレッジ
ホールディングス、ストリートメディア株式会社、
ソフトバンクロボティクス株式会社、
ダイソン株式会社、株式会社大同、
パトロンプロジェクト、美術Academy&School、
ワンピース倶楽部、COPAINS de 3331、
FORMOSA ART FAIR、OSAJI、
3331 Galleries

[コミュニケーションパートナー]

The Chain Museum

[パートナーホテル]

NOHGA HOTEL

[メディアパートナー]

ART iT、月刊「Art Collectors」、月刊「美術の窓」、
art in ASIA、Art In Culture、月刊ギャラリー、
CINRA.NET、Tokyo Art Beat、ハフポスト日本版、
美術手帖

[パートナーイベント]

アートフェア東京2020、
ART in PARK HOTEL TOKYO 2020、
ART FUTURE

総合ディレクター

中村 政人

統括マネージャー

彦根 延代

[企画制作・渉外・アーティスト・出展団体ほか]

マネージャー

木村 博行

[企画制作・渉外・出展団体ほか]

佐々木 香織

[企画制作・プライズセクター・セールス・レセプションほか]

アートディレクター

藤谷 けい

[企画制作・デザイン、Webディレクション・アーティストほか]

インストール

米窪 由樹子

[会場設計・施工ほか]

プライズセクター・出展団体アシスタント

西山 沙樹

出展団体アシスタント

岩垂 なつき

海外アーティスト / AIR 3331

エミリー・マクドウェル / 菊田 桃子

イベントコーディネーター

稲葉 智子 / 岩中 可南子

映像制作

河内 彰

グラフィック撮影

株式会社ゆかい

編集

浅見 旬 (well)

ガイドブック編集

野口 理恵

営業

武田 将臣 / 中村 侑子

WEBコーディング

中嶋 祐介 (NORMAL STANDARD)

デザイン

田上 亮介 / 森本 早紀

広報

稲葉 智子

会計

川元 真理子

事務局アシスタント

稲垣 素子 / 塚田 信郎 (Ahoy!)



3331
ARTS CYD